

外務省調查部監修
日本學術振興會編纂

條約改正
關係

大日本外交文書 第一卷

日本國際協會發行

序

昭和十一年二月、日本學術振興會第九小委員會に於ては明治立法史料蒐集事業の一部として、外務省保管の條約改正問題に關する史料の提供を求めた。外務省に於ては右事業に協力することとなり、資料の閲覧謄寫を許可し、人件並に物件諸費用は學術振興會に於て負擔し編輯事業は外務省調査部第一課（後に第四課）の監督の下に進涉したのである。

昭和十四年三月に至つて岩倉大使時代一冊、寺島外務卿時代三冊、井上外務卿時代五冊、大隈外務大臣時代三冊、青木榎本兩大臣時代一冊、陸奧外務大臣時代五冊、計十八冊九千五百七十五頁の謄寫を一應完了するに至つた。

然るに學界及一般識者の要望に鑑み之を刮削に附することとなり、爾來第九小委員會關係委員の審議を経、資料の再校補訂を行ひ、編輯に再檢討を加へて茲に上梓の運びに至つたので、經費は外務省、學術振興會にて負擔、日本國際協會をして發刊せしめるものである。自主外交思想國防の提唱せらるる折柄此の冊子が大方の外交認識を深めしむる糧ともなり、且又日本國際法樹立の爲めの一資料ともなれば幸ひである。

前記第九小委員會所屬の委員中本事業を直接擔當したるものは左の通である。

委員長	法學博士 加藤 正治
委員	元特命全權公使 川島 信太郎
委員	特命全權公使 米澤 菊二
委員	法學博士 立作 太郎
委員	外務省調査部長 高瀬 眞一
委員	元特命全權大使 栗山 茂
委員	法學博士 山川 端夫
委員	法學博士 山田 三良
委員	特命全權大使 松宮 順
委員	外務省條約局長 松本 俊一
委員	特命全權公使 三谷 隆信

猶外務省に於ける本書編纂に付ては委員たる新舊外務省調査部長の指導の下に、前外務省調査部第一課長永田安吉氏、同町田襄治氏、前外務省調査部第四課長三浦和一氏、同昌谷

忠氏、現調査部第四課長重松宣雄氏の協力に依り舊編纂囑託二瓶兵二氏、同故熊谷小鷹氏外務省囑託外山利雄氏及び皆川鐔彦氏等の手に依て之を編輯したものである。

昭和十六年三月

第九小委員會委員長

法學博士 加藤 正治

凡 例

一、本書は明治維新以來所謂陸奥條約の成立に至るまでの、本邦通商條約改正事業の真相、改正商議の實狀を明白にする爲め、外務省の關係記錄に據つて編纂したものである。

二、外務省の當該記錄は左記綴込簿冊を主なるものとした。

一 自明治 元 年 條約改正問題 一件 七一册
至明治二十六年

一日米、日英、日佛、其ノ他ノ諸國トノ通商條約改正 一件 二七册

一大隈外務大臣在職中條約改正ニ關スル處理沿革 一册

一大隈外務大臣條約改正書類 一册

一榎本外務大臣在職中條約改正ニ關スル處理沿革 一册

一陸奥外務大臣條約改正日記 八册

一條約改正ニ關シ帝國臣民建白 一件 一册

一改正條約實施準備ニ關スル事項取調方在歐米ノ各公使へ訓令 一件 四册

一改正條約實施準備 一件 三册

一 改正條約實施一件

一冊

一 自明治十五年日墨通商航海條約締結一件
一至明治二十三年

一冊

これ一には此等の簿冊が、條約改正の經緯を最も能く盡して居る爲であり、又他面編纂に要する時日の關係上、偏く外務省一般書類を涉獵する暇がなかつたからである。

三、文書の採擇に當つては、重複したもの、談判の進行にさまで重要でないものを除いて、他は殆く收載するを念としたのであつたが、書冊餘りに厯大浩漭に亘るを以て、井上外務卿時代以後は、改正商議の全貌を窺知し得る英米獨佛奧伊露の七強に重點を置き、他は關係文書の抄録に止めた。

四、明治初年より陸奧大臣改正談判の完結に至るまで三十餘年、其間外務長官の更迭、兼任臨時代攝を併せて十有六回を算して居る。本書に於ては便宜之を四卷に編綴し、明治十三年寺島外務卿の挂冠までを第一卷、明治二十年井上外務大臣の辭任までを第二卷、明治二十一年以降同二十五年に至る大隈、青木、榎本外務大臣時代を第三卷、明治二十五年以降陸奧外務大臣時代を第四卷に收めた。而して第一卷には參照の便に資する爲め、卷末に安政以降の舊條約中主要なものを登載し、第三卷には改正交渉の進

渉を幫助し得たと認められる、日墨通商航海條約締結一件並に日葡條約中一部廢棄一件を抄録して附録とした。

別に井上伯が東京に於て諸外國使臣と會同商議した條約改正豫備會議並に本會議の議事録を別冊二卷として收録し、更に概要一卷を添へて檢索に供ふ。

五、本書各卷文書收録の體裁は必しも揆を一にして居ない。井上伯及大隈伯の時代に共通の章を設けたが陸奧伯時代に在つては之を設けなかつた。蓋し井上伯の交渉は専ら綜合談判の形式に行はれ、大隈伯の時代には談判は國別の主義に據つたけれども、各國の間殆んど同時に開談せられ、幾多共通の文書がある。之に反し陸奧伯時代に至つては、交渉は英國を最初とし、其の略ぼ成るに及んで爾餘の諸國との間に商議が開始せられてゐる。かかる狀況の相違は自然收録の體裁を異にした所以である。

六、諸公信及來往の電信中に他の文書電信を引用したものは概ね1、2、等を旁記し各文書末尾に本書に於ける文書番號を註記して參照檢出に便にした。

七、收録の文書は原文を尊重して忠實に謄寫し、猥りに改竄を加へる等のことはしなかつたが、一文中に混淆使用せられた假名の書體は一に改めた。又昔日の語句用例で、今

日其の意の通じ難きもの、及び誤解の虞あるものに就いては、(マ、)(シ、)等適宜旁註を施し、缺字と思はれるものは()括弧を以て之を補ひ、衍字と認められるものは□枠を加へて之を標した。

昭和十六年三月下澣

編 者 誌

條約改正關係

大日本外交文書

第一卷

目 次

第一章 明治政府ノ條約改正提議

第二章 岩倉大使ノ歐米各國ニ於ケル條約改正商議

第一節 岩倉大使歐米派遣

第二節 岩倉大使ト各國トノ條約改正商議

第三章 寺島外務卿時代

第一節 條約改正交渉開始

第二節 對米交涉	四二四
第三節 對英交涉 附 對葡交涉	五三五
第四節 對佛交涉 附 對白交涉	六六〇
第五節 對獨交涉 附 對蘭交涉	七二九
第六節 對墺交涉	七八二
第七節 對露交涉	七八八
第八節 對伊交涉	八一四

附錄 舊條約集

條約改正關係大日本外交文書 第一卷 目次 終

目次細目

第一章 明治政府ノ條約改正提議

番號	日	附	宛名其他	事項
一	明治元年十二月二十三日 (西曆一八六九年二月四日)		東久世外國官副知事ヨリ 各國公使宛	幕府締結ノ條約改正ノ爲商議開始申 出ノ件
二	明治元年十二月二十三日 (西曆一八六九年二月四日)		外國官判事ヨリ 神奈川縣宛	獨逸北部聯邦トノ新條約調印延期方 申入ノ件
		附屬書	外國官副知事東久世通禧ヨリ獨逸北部聯邦代理公使宛 條約調印延期方申入書翰案	
三	明治元年十二月二十四日 (西曆一八六九年二月五日)		獨逸北部聯邦代理公使ヨリ 東久世外國官副知事宛	修好通商條約豫定期日ニ調印シ度旨 申出ノ件
四	明治元年十二月二十九日 (西曆一八六九年二月十日)		英國公使ヨリ 東久世外國官副知事宛	條約改正商議開始ノ申出ニ對シ回答 ノ件
五	明治二年一月一日 (西曆一八六九年二月十一日)		蘭國辦理公使ヨリ 東久世外國官副知事宛	條約改正商議開始ノ申出ニ對シ回答 ノ件
六	明治二年一月二日 (西曆一八六九年二月十二日)		東久世外國官副知事ヨリ 蘭國辦理公使宛	條約改正申出ノ理由ニ關シ回答ノ件
七	明治二年一月二日 (西曆一八六九年二月十二日)		獨逸北部聯邦公使ヨリ 東久世外國官副知事宛	條約改正商議開始ノ申出ニ對シ回答 ノ件
八	明治二年一月六日 (西曆一八六九年二月十六日)		米國代理公使ヨリ 東久世外國官副知事宛	條約改正商議開始ノ申出ニ對シ回答 ノ件
九	明治二年一月九日 (西曆一八六九年二月十九日)		佛國公使ヨリ 東久世外國官副知事宛	條約改正商議開始ノ申出ニ對シ回答 ノ件

一〇 明治二年一月十三日
(西曆一八六九年二月二十三日)

町田外國官判事等ヨリ
露(箱館在勤)瑞(西、丁、葡
白)横濱在勤)各國領事宛

條約改正商議開始ニ關シ意見照會ノ
件.....八

一一 明治二年一月二十日
(西曆一八六九年三月二日)

瑞西國總領事代理(横濱在
勤)ヨリ
東久世外國官副知事宛

條約改正商議開始ニ關シ回答ノ件.....九

一二 明治二年一月二十八日
(西曆一八六九年三月十日)

町田外國官判事等ヨリ
露國領事(箱館在勤)宛

條約改正商議ノ意向アルニ付新定約
書ノ決定通知ヲ爲サル、旨通知ノ件.....一一

一三 明治二年一月二十九日
(西曆一八六九年三月十一日)

蘭國領事(横濱在勤)ヨリ
町田外國官判事等宛

條約改正商議開始ニ關シ回答ノ件.....一二

一四 明治二年二月四日
(西曆一八六九年三月十六日)

白國副領事(横濱在勤)ヨリ
神奈川縣裁判所宛

條約改正商議開始ニ關シ回答ノ件.....一二

一五 明治二年二月八日
(西曆一八六九年三月二十日)

露國領事(箱館在勤)ヨリ
東久世外國官副知事宛

條約改正商議開始ニ關シ新定約書ニ關
シ回答ノ件.....一二

一六 明治二年二月十五日
(西曆一八六九年三月二十七日)

丁抹國總領事(横濱在勤)ヨリ
東久世外國官副知事宛

條約改正商議開始ニ關シ回答ノ件.....一三

一七 明治二年十二月十日
(西曆一八七〇年一月十一日)

澤外務卿寺島同大輔ヨリ
各國公使宛
町田外務大丞ヨリ
露(箱館在勤)蘭(瑞、西、丁、
白)葡(横濱在勤)各國領事宛

條約改正條約所定ノ期日ヲ待チ商議
ニ及フヘキ旨通知ノ件.....一五

一八 明治三年四月日
(西曆一八七〇年四月日)

外務省中評議

條約改正準備ノ爲英吉利ト各國間ノ
條約書類等翻譯ニ關スル件.....一六

一九 明治三年十月七日
(西曆一八七〇年十月三十一日)

外務省中評議

條約改正ノ準備ノ爲取調掛任命方ノ
件.....一七

二〇 明治三年十月日
(西曆一八七〇年十月日)

外務省ヨリ
太政官辦官宛

條約改正ニ關スル調查方外務省ヘ委
任アリ度旨ノ件並ニ之ニ對スル太政
官決裁.....一九

二一 明治四年一月日
(西曆一八七一年一月日)

外務省ヨリ
太政官辦官宛

條約改正談判開始ニ關シ御下問ノ爲
集議院開院アリ度旨伺ノ件.....二〇

二二 明治四年二月七日
(西曆一八七一年三月二十七日)

澤外務卿ヨリ
太政官辦官宛

條約改正取調ノ爲刑部中判事津田眞
道ニ外務省出仕仰付ラレ度旨伺ノ件.....二二

二三 明治四年二月八日
(西曆一八七一年三月二十八日)

太政官辦官ヨリ
外務省宛

集議判官神田孟恪ニ外務省出仕仰付
ノ旨通知ノ件.....二三

二四 明治四年三月十日
(西曆一八七一年四月二十三日)

外務省ヨリ
太政官辦官宛

貿易規則改正ニ關シ民部大藏兩省ヘ
調查方下命アリ度旨上申ノ件.....二四

二五 明治四年三月十四日
(西曆一八七一年四月二十七日)

寺島外務大輔ヨリ
英國公使館書記官宛

條約改正要目送付ノ件.....二五

二六 明治四年三月十五日
(西曆一八七一年五月五日)

澤外務卿ト米國公使トノ對
話書

條約改正通告ニ關スル件.....二六

二七 明治四年三月十九日
(西曆一八七一年五月八日)

太政官辦官ヨリ
外務省宛

參議大隈重信、大藏省出仕吉田太郎
ニ各國條約改正御用掛仰付ノ辭令寫
送付ノ件.....二七

二八 明治四年四月四日
(西曆一八七一年五月二十二日)

英國公使ヨリ
澤外務卿宛

條約規定ニ依リ千八百七十二年七月
一日以後ニ於テ改正商議ヲ爲スヘキ
權ヲ有スル旨申入ノ件.....二八

二九 明治四年四月九日
(西曆一八七一年五月二十七日)

伊國公使館事務取扱ヨリ
澤外務卿宛

條約規定ニ基キ千八百七十二年后
ニ於テ改正交渉ヲ爲スヘキ意向通
知ノ件.....二九

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三〇 明治四年四月二十九日
(西曆一八七一年六月十六日)

澤外務卿ト伊國公使館事務
取扱トノ對話書

條約改正要目並ニ伊國政府ノ改正希
望條項ニ關スル件.....三〇

三	明治四年五月十三日 (西曆一八七一年六月三十日)	外務省ヨリ 太政官辦官宛	各國ヘノ條約改正通告案ニ關シ何ノ 件竝ニ之ニ對スル太政官決議	二八
---	-----------------------------	-----------------	-----------------------------------	----

附屬書

右通告案

二八

附記

五月十三日外務省ヨリ太政官辦官宛
右通告案字句修正ノ上送達セル旨通知ノ件

二八

三二	明治四年五月十三日 (西曆一八七一年六月三十日)	澤外務卿ヨリ 各國公使(英國ヲ除ク)宛 石橋外務卿少丞等ヨリ 各國領事宛	條約改正通告ノ件	二八
----	-----------------------------	---	----------	----

三三	明治四年五月十三日 (西曆一八七一年六月三十日)	澤外務卿ヨリ 英國臨時代理公使宛	條約改正通告ノ件	二九
----	-----------------------------	---------------------	----------	----

三四	明治四年五月十五日 (西曆一八七一年七月二日)	米國公使ヨリ 澤外務卿宛	條約改正見込簡條竝ニ外國人ヨリノ 訴訟取扱ニ關スル件	三〇
----	----------------------------	-----------------	-------------------------------	----

三五	明治四年五月十七日 (西曆一八七一年七月四日)	澤外務卿等ト 蘭國辦理公使トノ對話書	條約改正ニ關スル通告ハ外務卿輔ヨ リ達セラレ度五月十三日附通告ヘ一 應返却スヘキ旨申出ノ件	三一
----	----------------------------	-----------------------	---	----

三六	明治四年五月十九日 (西曆一八七一年七月六日)	瑞西領事(橫濱在勤)ヨリ 石橋外務卿少丞等宛	條約改正通告ノ件	三二
----	----------------------------	---------------------------	----------	----

三七	明治四年五月二十日 (西曆一八七一年七月七日)	澤外務卿等ヨリ 橫濱在勤瑞西國總領事宛	條約改正ノ準備進捗セサルニヨリ太 政官各省ヨリ御用掛事務ノ者ヲ任 命シ會議ヲ催サレ度旨伺ノ件	三三
----	----------------------------	------------------------	--	----

三八	明治四年五月二十日 (西曆一八七一年七月七日)	外務省ヨリ 太政官辦官宛	條約改正見込簡條ニ關スル件	三四
----	----------------------------	-----------------	---------------	----

三九	明治四年七月三日 (西曆一八七一年八月十八日)	澤外務卿ト橫濱在勤葡國領 事トノ對話書	貿易規則改正ニ關スル大藏省ヨリノ 建議ニ就キ同省ト協議スヘキ旨指令 ノ件	三五
----	----------------------------	------------------------	--	----

四〇	明治四年七月十九日 (西曆一八七一年九月三日)	岩倉外務卿等ト米國公使ト ノ對話書	貿易規則改正ニ關スル大藏省ヨリノ 建議ニ就キ同省ト協議スヘキ旨指令 ノ件	三五
----	----------------------------	----------------------	--	----

四一	明治四年八月二十八日 (西曆一八七一年十月十二日)	太政官ヨリ 外務省ヘノ達	貿易規則改正ニ關スル大藏省ヨリノ 建議ニ就キ同省ト協議スヘキ旨指令 ノ件	三五
----	------------------------------	-----------------	--	----

附屬書

八月大久保大藏卿等ヨリ太政官正院宛書翰
貿易規則改正ニ關シ建議ノ件

三五

第二章 岩倉大使ノ歐米各國ニ於ケル 條約改正商議

第一節 岩倉大使歐米派遣

四二	明治四年九月十五日(假) (西曆一八七一年十月二十八日)	三條太政大臣ヨリ 岩倉外務卿ヘノ諮問ニ通	歐米各國ヘ使節ヲ派遣スヘキノ件竝 ニ改正スヘキ條約要目ニ關スル件	三七
----	---------------------------------	-------------------------	-------------------------------------	----

四三	明治四年九月十五日 (西曆一八七一年十月二十八日)	岩倉外務卿ヨリ 太政官正院宛	使節派遣竝ニ改正延期年限ニ關シ答 申ノ件	四三
----	------------------------------	-------------------	-------------------------	----

四四	明治四年十月四日 (西曆一八七一年十一月十六日)	佛國公使歸國ニ際シ條約改正使節派遣ニ關シ賜ハリタル勅語竝 ニ佛國公使ノ言上振	使節歐米御差遣ニ付幹旋方ニ關スル 件	四三
----	-----------------------------	---	-----------------------	----

四五	明治四年十月四日 (西曆一八七一年十一月十六日)	岩倉外務卿等ヨリ 米國公使宛	外務卿岩倉具視右大臣ニ任命ノ旨通 知ノ件	四四
----	-----------------------------	-------------------	-------------------------	----

四六	明治四年十月八日 (西曆一八七一年十一月二十日)	太政官式部寮ヨリ 外務省宛	竝ニ歐米派遣特命全權大使以下任命 ノ旨通知ノ件	四五
----	-----------------------------	------------------	----------------------------	----

四七	明治四年十月十四日 (西曆一八七一年十二月二日)	寺島外務大輔ヨリ 各國公使(露國外務卿宛 橫濱在勤瑞西國總領事宛)	和親聘問竝ニ條約改正準備ノ爲特命 全權公使岩倉具視以下ヲ歐米ニ差遣 ノ旨通告ノ件	四六
----	-----------------------------	---	--	----

四八	明治四年十月十四日 (西曆一八七一年十二月二日)	岩倉大使ヨリ 英國公使(歸國中)宛	特命全權大使拜命締盟各國ヲ訪問ス ヘキニ付渡英ノ節種々周旋ニ預リ度 旨依頼ノ件	四七
----	-----------------------------	----------------------	---	----

目次細目

六

四九 明治四年十月十四日
(西曆一八七一年十二月二十六日)

岩倉大使ヨリ
獨國代理公使(歸國中)宛

特命全權大使拜命締盟各國ヲ訪問ス
ヘキニ付渡獨ノ節種々周旋ニ預リ度
旨依頼ノ件 四八

五〇 明治四年十月十五日
(西曆一八七一年十二月二十七日)

英國代理公使ヨリ
寺島外務大輔宛

岩倉大使以下御差遣ノ通知了承ノ旨
回答ノ件 四八

五一 明治四年十月二十二日
(西曆一八七一年十二月四日)

太政官式部寮ヨリ
外務省宛

歐米派遣官以下任命ノ旨通知ノ件 五〇

附記

十月二十三日以後ノ大使隨行者異動ニ關スル辭令
一、二、三、四

五一

五二 明治四年十月二十二日
(西曆一八七一年十二月四日)

青島外務大輔ト蘭國辦理公
使トノ對話書

岩倉大使ノ使命竝ニ條約改正ノ見込
ニ關スル件 五七

五三 明治四年十月二十七日
(西曆一八七一年十二月九日)

坊城式部頭ヨリ
岩倉大使宛

特命全權大使發遣式ニ關シ打合ノ件 五九

附屬書

右式次第

五四 明治四年十月二十七日
(西曆一八七一年十二月九日)

岩倉大使等ヨリ
大久保大藏卿等宛

條約改正談判ノ爲改正希望ノ税目及
理由早々調査アリ度旨依頼ノ件 六〇

五五 明治四年十一月一日
(西曆一八七一年十二月十二日)

井上大藏大輔等ヨリ
太政官正院宛

租税及關稅ノ改正竝ニ輸出入ノ利害
ニ關スル意見書送付ノ件 六〇

附屬書一

內國租稅改正見込書

六一

二 租税及關稅ノ改正竝ニ輸出入ノ利害
ニ關スル說
明書

六一

五六 明治四年十一月二日
(西曆一八七一年十二月十三日)

太政官式部寮ヨリ
岩倉大使宛

十一月四日遣外國使節執行ニ關シ
通知ノ件 六四

附屬書

遣外國使節察次第書

六四

五七 明治四年十一月三日
(西曆一八七一年十二月十四日)

米國公使歸國ニ際シ條約改正使節派遣ニ
關シ賜ハリタル勅語竝
ニ米國公使ノ言上振

六五

五八 明治四年十一月四日
(西曆一八七一年十二月十五日)

特命全權大使發遣式ニ際シ大使及副使ニ賜ハリタル勅語

六五

五九 明治四年十一月四日
(西曆一八七一年十二月十五日)

特命全權大使同副使ニ全權御委任ノ國書

六六

六〇 明治四年十一月四日
(西曆一八七一年十二月十五日)

特命全權大使ノ使命ニ關スル勅旨

六七

六一 明治四年十一月四日
(西曆一八七一年十二月十五日)

條約改正要目ニ關スル別勅旨

六八

六二 明治四年十一月五日
(西曆一八七一年十二月十六日)

田邊外務少丞ヨリ
伊國公使館書記官宛

岩倉大使一行各國公使ヘ會見致スヘ
キ旨豫告ノ件 六九

六九

附記

各國公使ト會見席上ニ於ケル岩倉大使ノ口上振

六九

六三 明治四年十一月五日
(西曆一八七一年十二月十六日)

外務省ヨリ
兵部省宛

岩倉大使神奈川出帆ノ際ノ祝砲發數
問合ノ件竝ニ右ニ關シ同大使ノ資格
照會ノ兵部省附紙 六九

六九

六四 明治四年十一月六日
(西曆一八七一年十二月十七日)

外務省ヨリ
兵部省宛

岩倉大使ノ資格竝ニ右ニ相當スヘキ
祝砲發數ニ就キ意見回答ノ件 七〇

七〇

六五 明治四年十一月七日
(西曆一八七一年十二月十八日)

外務省ヨリ
兵部省宛

岩倉大使ヘノ祝砲發數ハ十九發ヲ至
當ト考フル旨回答ノ件 七〇

七〇

六六 明治四年十一月七日
(西曆一八七一年十二月十八日)

大使遣外中ハ内外照應シテ
院省使長次官約定

內政ノ處理ニ當ルヘキ旨ノ大臣參議

七一

六七 明治四年十一月七日
(西曆一八七一年十二月十八日)

寺島外務大輔ヨリ
各國公使宛

岩倉大使一行人名竝ニ旅程通知ノ件 七三

七三

六八 明治四年十一月七日
(西曆一八七一年十二月十八日)

英、佛、蘭、獨各公使宛
副島外務卿等ヨリ

岩倉大使派遣ニ際シ條約改正希望要
旨通知ノ件 七四

七四

六九 明治四年十一月十二日
(西曆一八七一年十二月二十三日)

外務省ヨリ
太政官正院宛

岩倉大使一行本日出帆セシ旨ノ神奈
川縣ヨリノ電信傳達ノ件 七五

七五

附記

岩倉大使一行旅程表

七五

目次細目

七

七〇	明治四年十一月二十五日 (西曆一八七二年一月五日)	桑港在勤日本領事「ブルークス」ヨリ 副島外務卿等宛	岩倉大使歡迎ノ手配ヲ了セル旨竝ニ 大使ニ隨行不在中ノ代理者ヲ委任セ ル旨報告ノ件	七七
七一	明治四年十二月十一日 (西曆一八七二年一月二十日)	長崎縣ヨリ 外務省宛	岩倉大使桑港安著ヲ報スル電信送付 ノ件	七八

七二	明治五年一月十八日 (西曆一八七二年二月十八日)	別錄 岩倉大使一行渡米日記抄	岩倉大使一行ニ加ハル爲佛國ヨリ紐 育ニ到着セル旨等報告ノ件	七九
----	-----------------------------	-------------------	----------------------------------	----

七三	明治五年二月十七日 (西曆一八七二年三月二十五日)	英國臨時代理公使ヨリ 副島外務卿宛	岩倉大使一行ヲ歡迎シ且條約改正期 ニ同意スル旨ノ本國政府ノ意向傳達 ノ件	八〇
----	------------------------------	----------------------	--	----

七四	明治五年二月二十九日 (西曆一八七二年四月六日)	橫濱在勤瑞西國總領事ヨリ 副島外務卿宛	條約改正ニ同意シ又岩倉大使一行ヲ 歡待スヘキ旨ノ本國政府ノ意向傳達 ノ件	八二
----	-----------------------------	------------------------	--	----

七五	明治五年三月八日 (西曆一八七二年四月十五日)	西班牙國代理公使ヨリ 副島外務卿等宛	岩倉大使一行ノ訪問ハ滿悅ナル旨 ノ本國政府ヨリノ意嚮傳達ノ件	八四
----	----------------------------	-----------------------	-----------------------------------	----

第二節 岩倉大使ト各國トノ條約改正商議

七六	明治五年二月三日 (西曆一八七二年三月十一日)	米國國務省ニ於ケル岩倉大 使等ト米國國務卿等トノ對 話書	條約改正ニ對スル岩倉大使等ノ權限 竝ニ條約中改正希望條項等照會ノ件	八四
----	----------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	----

七七	明治五年二月五日 (西曆一八七二年三月十三日)	米國國務省ニ於ケル岩倉大 使等ト米國國務卿等トノ對 話書	日米兩國ヨリ條約改正希望條項開陳 ノ件	八八
----	----------------------------	------------------------------------	------------------------	----

七八	明治五年二月八日 (西曆一八七二年三月十六日)	岩倉大使等ト米國國務卿等 トノ對話書	彼我ノ改正希望條項ニ關シ意見交換 ノ件	九四
----	----------------------------	-----------------------	------------------------	----

七九	明治五年二月九日 (西曆一八七二年三月十七日)	大使隨行田邊一等書記官等 ヨリ外務大臣等宛	華盛頓到着竝ニ大統領ヘ謁見等報告 ノ件	一〇一
----	----------------------------	--------------------------	------------------------	-----

八〇	明治五年二月十八日 (西曆一八七二年三月十八日)	附記 大使謁見ノ節演書寫		一〇二
八一	明治五年二月十三日 (西曆一八七二年三月二十一日)	別錄 岩倉大使一行渡米日記抄	彼我ノ改正希望條項ニ關シ意見交換 ノ件	一〇三

八二	明治五年二月十九日 (西曆一八七二年三月二十七日)	木戸副使等ト米國國務卿ト ノ對話書	歸朝ニ際シ條約改正ニ關スル意見開 陳ノ件	一〇七
八三	明治五年二月十九日 (西曆一八七二年三月二十七日)	大久保伊藤兩副使ヨリ 岩倉大使等宛	岩倉大使宛宛電信案ニ關シ意見開合竝 ニ之ニ關スル回答ノ件	一一七

八四	明治五年三月十二日 (西曆一八七二年四月十九日)	太政官正院ヨリ 副島外務卿等宛	附屬書 「二月三條太政大臣ヨリ岩倉大使宛宛電信案」 條約改正ノ全權狀ニ關シ詳報アリ度旨ノ件	一一九
----	-----------------------------	--------------------	---	-----

八五	明治五年三月十五日(假) (西曆一八七二年四月二十二日)	岩倉大使等ト米國國務卿等 トノ對話書	開港問題等ニ關スル件	一二〇
八六	明治五年三月十五日 (西曆一八七二年四月二十二日)	大使隨行田邊一等書記官 (米國ニテ)ヨリ	條約改正談判遷延ノ事情等報告ノ件	一二三

八七	明治五年三月二十八日 (西曆一八七二年五月五日)	別錄 岩倉大使一行渡米日記抄	日本側提示ノ改正條約案討議ノ件	一二四
八八	明治五年三月二十九日 (西曆一八七二年五月六日)	米國國務省ニ於ケル岩倉大 使等ト國務卿等トノ對話書	大久保伊藤兩副使等ノ安着等報告ノ 件	一二八

八九	明治五年四月十三日 (西曆一八七二年五月十九日)	外務大臣等ヨリ 大使隨行田邊一等書記官宛	五次ノ公信到着及近況報告ノ件	一三四
九〇	明治五年四月十六日 (西曆一八七二年五月二十二日)	別錄 岩倉大使一行渡米日記抄	條約改正談判ノ場所變更ニ關スル件	一三五

九一

明治五年四月十八日
(西曆一八七二年五月二十四日)副島外務卿等ヨリ各國公使
橫濱在勤西國總領事宛岩倉大使等ニ改正條約調印ノ全權附
與方決定セルニ付本國政府ニ通達方
依頼ノ件 一四一

九二

明治五年四月十九日
(西曆一八七二年五月二十五日)英國臨時代理公使ヨリ
副島外務卿宛岩倉大使等ニ全權附與ニ關シ本國政
府ニ通達方了承セルモ前議變更ノ經
緯等ニ就キ報知ナキトキハ遺憾ナル
旨回答ノ件 一四三

九三

明治五年四月二十二日
(西曆一八七二年五月二十八日)宮本外務少丞ト伊國公使ト
ノ對話岩倉大使等ニ全權附與ノ事各國ニ通
告ノ際異同ノ取扱アリタルヤノ件 一四五

九四

明治五年四月二十五日
(西曆一八七二年五月三十一日)副島外務卿等ヨリ
太政官正院宛外務卿權限及條約改正問題ニ關シ上
申ノ件 一四六

九五

明治五年四月二十六日
(西曆一八七二年六月一日)華盛頓ニ於ケル岩倉大使等
ト米國國務卿トノ對話書岩倉大使等ノ改正條約調印ノ權限、
日本側提出ノ新定條約竝ニ附錄草案
ニ關スル件 一四七

九六

明治五年四月二十九日
(西曆一八七二年六月四日)副島外務卿等ト伊國公使ト
ノ對話書日米間條約改正交渉ニ關シ伊國公使
ヨリ情報要請ノ件 一五二

九七

明治五年四月二十九日(假)
(西曆一八七二年六月四日)大使隨行田邊一等
書記官等ノ口上覺

歸朝ノ使外等ニ關スル件 一五五

九八

明治五年五月二日
(西曆一八七二年六月七日)太政官正院ヨリ
副島外務卿宛岩倉大使ヨリ電信ニ對スル回答ニ關
シ取計方依頼ノ件 一五七

附屬書

「四月二十二日岩倉大使ヨリ三條太政大臣宛電信和譯
文」條約調印ノ全權御委任狀ヲ森少辨務使ニ附與ス
ル儀ニ關シ速ニ回答アリ度旨ノ件 一五八

附記

「五月二日三條太政大臣ヨリ岩倉大使宛(電信)」
右ニ對シ回答ノ件 一五八

九九

明治五年五月三日
(西曆一八七二年六月八日)岩倉大使等ト米國國務卿等
トノ對話書米國側ヨリ新定條約竝ニ附錄ノ草案
提出ノ件 一五八

一〇〇

明治五年五月三日
(西曆一八七二年六月八日)米國側ヨリ提出セル合衆國日本帝國新定條約竝ニ附錄ノ草案譯
文

一六〇

一〇一

明治五年五月三日
(西曆一八七二年六月八日)外務大丞等ヨリ
大使隨行田邊一等書記官宛大久保伊藤兩副使及英國駐劄寺島大
辨務使等ノ出發等報告ノ件 一六一

一〇二

明治五年五月十日
(西曆一八七二年六月十五日)副島外務卿ト米國臨時代理
公使ト對話書條約改正談判ノ場所竝ニ輸出入物品
稅ニ關スル件 一六七

一〇三

明治五年五月十七日
(西曆一八七二年六月二十二日)岩倉大使等ヨリ
太政官正院宛

小松二等書記官桑港到着等報告ノ件 一六八

別錄

岩倉大使一行渡米日記抄 一六九

一〇四

明治五年五月二十二日
(西曆一八七二年六月十七日)日本駐劄獨國辦理公使(華
盛頓ニテ)ヨリ
岩倉大使宛條約改正問題特ニ最惠國約款ニ關ス
ル件 一七二

一〇五

明治五年五月二十三日
(西曆一八七二年六月十八日)佛國臨時代理公使ヨリ
副島外務卿宛

條約改正要項提示方申入ノ件 一七三

附記

右ニ對スル回答趣意書
改正要項提出シ難キ旨ノ件 一七四

一〇六

明治五年五月二十四日
(西曆一八七二年六月二十九日)大使隨行田邊一等書記官ヨ
リ外務大丞等宛歸朝ノ途上小松二等書記官ト出會シ
歸朝ヲ中止セル次第報告ノ件 一七四

一〇七

明治五年五月二十七日(假)
(西曆一八七二年七月二日)岩倉大使一行ノ打合條項
米國國務卿別莊ニ於ケル岩
倉大使ト國務卿トノ對話書條約改正ノ爲ノ各國合同會議開催等
ニ關スル件 一七七

一〇八

明治五年六月五日
(西曆一八七二年七月十日)華盛頓ニ於ケル岩倉大使等
ト米國國務卿等トノ對話書大久保、伊藤兩副使來著迄條約改正
交渉ヲ中止スル件 一九二

一〇九

明治五年六月十五日
(西曆一八七二年七月二十日)華盛頓ニ於ケル岩倉大使等
ト米國國務卿等トノ對話書日米間ノ條約改正談判中止ニ關スル
件 一九三

一一〇

明治五年六月十七日
(西曆一八七二年七月二十二日)華盛頓ニ於ケル岩倉大使等
ト米國國務卿等トノ對話書日米間ノ條約改正談判中止ニ關スル
件 一九三

附記

五月十四日附條約調印ノ全權御委任狀 一九五

一一一

明治五年六月十七日
(西曆一八七二年七月二十二日)岩倉大使(米國ニテ)ヨリ
三條太政大臣宛米國ニ於ケル條約改正談判中止ノ經
過竝ニ改正談判ハ歸朝後我國ニ於テ
開クコト、爲シタル旨報告ノ件 一九六

目次細目

一一一

一一二 明治五年六月十九日
(西曆一八七二年七月二十四日)

米國國務卿宅ニ於ケル岩倉大使ト國務卿トノ對話書

日米間ノ條約改正談判中止ニ付今後ノ見込談合ノ件……………二〇〇

一一三 明治五年六月二十一日
(西曆一八七二年七月二十六日)

英國駐劄寺島大辨務使(米國ニテ)ヨリ
副島外務卿宛

米國ニ於ケル條約改正ノ中止ニ關シ内報ノ件……………二〇一

一一四 明治五年七月一日
(西曆一八七二年八月四日)

岩倉大使ヨリ
三條太政大臣宛

近日渡英スヘキ旨報告ノ件……………二〇二

一一五 明治五年七月二日
(西曆一八七二年八月五日)

大使隨行書記官ヨリ
外務大臣等宛

六月十九日暇乞トシテ大統領ヘ謁見ノ節ノ演述書及大統領ノ答詞……………二〇三

附屬書
別 錄

岩倉大使等(英國ニテ)ヨリ
三條太政大臣宛

條約改正中止ニ關シ論評セル米使送付ノ件……………二〇四

一一六 明治五年七月十八日
(西曆一八七二年八月二十一日)

岩倉大使等(英國ニテ)ヨリ
三條太政大臣宛

六月二十四日ヒラドルピア日刊新聞抄譯……………二〇五

一一七 明治五年八月十日
(西曆一八七二年九月十二日)

岩倉大使等(英國ニテ)ヨリ
三條太政大臣宛

大使一行ノ倫敦安着ノ次第等報告ノ件……………二一〇

附屬書
別 錄

八月三日岩倉大使等ヨリ英國外相宛書翰寫
英國女皇ヨリ謁見ヲ賜ハリ度旨申入ノ件

英國女皇謁見手續等ニ關シ報告ノ件……………二一三

一一八 明治五年十月二十二日
(西曆一八七二年十二月二日)

英國外務省ニ於ケル岩倉大使ト同國外相トノ對話書

條約改正ニ關スル英國側ノ意向打診ノ件……………二二三

一一九 明治五年十月二十七日
(西曆一八七二年十二月七日)

英國外務省ニ於ケル岩倉大使ト同國外相トノ對話書

條約改正ニ關スル意見交換ノ件……………二二五

一二〇 明治五年十一月六日
(西曆一八七二年十二月六日)

英國外務省ニ於ケル岩倉大使等ト英國外相等トノ對話書

條約改正、内地旅行、衛兵引揚、下ノ關價金ニ關シ談判ノ件……………二二九

一二一 明治五年十一月六日
(西曆一八七二年十二月六日)

岩倉大使等ヨリ
三條太政大臣等宛

英國女皇謁見ノ次第報告ノ件……………二三三

附屬書

別 錄

十一月五日英國女皇謁見ノ際ノ口上及女皇答辭……………二三四
岩倉大使一行英蘇巡歴日記抄……………二三五

一二二 明治六年一月三日

岩倉大使等ヨリ
三條太政大臣宛

佛國大統領ヘ謁見ノ模様報告ノ件……………二五〇

一二三 明治六年一月二十四日

佛國外務省ニ於ケル岩倉大使ト佛國外務卿トノ對話書

明治五年十一月二十六日岩倉大使等佛國大統領ヘ謁見ノ節ノ口上書並ニ佛國大統領ノ答詞……………二五一

一二四 明治六年二月六日

岩倉大使等ヨリ
三條太政大臣等宛

條約改正ニ關スル意圖陳述並ニ右ニ關スル佛國側ノ意見照會ノ件……………二五二

一二五 明治六年二月二十三日

白國ニ於ケル岩倉大使ト同國大藏卿トノ對話書

佛國外務卿ト面談ノ儀並ニ大使隨行鹽田一等書記官等歸國ノ旨報告ノ件……………二五八

一二六 明治六年二月三日

英國臨時代理公使ヨリ
副島外務卿宛

條約改正ニ關スル意圖陳述並ニ右ニ關スル意見交換ノ件……………二五九

附屬書
別 錄

英國臨時代理公使捧呈ノ國書……………二六三
岩倉大使持參ノ國書ノ答書捧呈ノ爲謁見ノ期日照會並ニ同書寫送付ノ件……………二六四

一二七 明治六年三月四日

英國ノ臨時代理公使ニ對スル勅答……………二六六

一二八 明治六年三月十三日

岩倉大使等ヨリ
三條太政大臣等宛

條約改正ニ關スル意圖陳述並ニ蘭國側ノ意見照會ノ件……………二六九

附屬書
別 錄

二月十八日白國皇帝ヘ謁見手續概略……………二七一
二月二十五日和蘭國皇帝ヘ謁見手續概略……………二七一

三 和蘭國皇帝ヘ謁見ノ節大使口上……………二七二

四 右ニ對スル和蘭國皇帝ノ答詞……………二七二

目次細目

一一三

目次細目

一四

五 三月十一日獨國皇帝へ謁見手續概略……………二七二
六 獨國皇帝謁見ノ節大使口上……………二七三

一二九 明治六年 三月 二十日

獨國外務省ニ於ケル岩倉大使ト同國外務大臣等宛 稅權回復希望其他條約改正ニ關スル件……………二七四

一三〇 明治六年 三月 二十八日

岩倉大使等ヨリ 大使一行露國へ出發スヘキ旨竝ニ本戶大久保兩副使ノ行動等報告ノ件……………二七五

附屬書

岩倉大使等獨國皇帝へ謁見ノ節同皇帝答詞……………二七六

一三一 明治六年 四月 十三日

岩倉大使等ヨリ 露國訪問ノ模様等報告ノ件……………二七七
三條太政大臣等宛 大使露國皇帝へ謁見ノ次第書……………二七九

附屬書

大使露國皇帝へ謁見ノ次第書……………二七九

一三二 明治六年 四月 二十二日

上野外務卿代理ヨリ 岩倉大使一行ノ歸國方然ルヘキ儀内英國駐劄寺島公使佛國駐劄鯨島辦理公使宛 定ノ旨等通知ノ件……………二八〇

一三三 明治六年 五月 二日

岩倉大使等ヨリ 丁抹端典兩國訪問ノ模様今後ノ豫定等報告ノ件……………二八一
三條太政大臣等宛 下ノ關事件價金問題ニ對スル和蘭政府答書概略……………二八三

附屬書

下ノ關事件價金問題ニ對スル和蘭政府答書概略……………二八三

一三四 明治六年 五月 十四日

三條太政大臣等ヨリ 國內事務多端ニ付主要國ノ巡聘濟ミタル上ハ速ニ歸朝可然旨等通告ノ件……………二八五

一三五 明治六年 五月 十八日

伊國外務省ニ於ケル岩倉大使等ト同國外務卿トノ對話 條約改正ニ關スル伊國側ノ見込照會ノ件……………二八六

一三六 明治六年 五月 十九日

岩倉大使等ヨリ 伊國訪問ノ模様及同國政府トノ交渉次第等報告ノ件……………二八八

一三七 明治六年 五月 二十七日

三條太政大臣等ヨリ 大久保副使歸朝ノ旨通知竝ニ井上大藏大輔瀝澤大藏省出仕ヨリノ建言書等ニ關シ報告ノ件……………二八九

一三八 明治六年 六月 一日

岩倉大使等ヨリ 葡萄牙國訪問ハ途次困難ナルニ付先ツ埃地利國へ赴クヘキ旨等報告ノ件……………二九一

一三九 明治六年 六月 十二日

獨國外務省ニ於ケル岩倉大使等ト同國外務卿トノ對話 領事裁判ノ廢止及稅目改正ノ希望陳述竝ニ右ニ關シ意見照會ノ件……………二九二

一四〇 明治六年 六月 十四日

岩倉大使ヨリ 西班牙國騷擾ニ付葡萄牙國へ赴キ難キヲ以テ右事件鎮定迄歐洲ニ滞在スヘキヤ否ヤ問合ノ件……………二九五

一四一 明治六年 六月 二十日

上野外務卿代理ヨリ 速ニ歸朝スヘキ旨岩倉大使へノ回答案伺ノ件竝ニ太政大臣決裁……………二九六

附屬書

右岩倉大使へノ回答案……………二九六

一四二 明治六年 六月 二十二日

露國代理公使ヨリ 露國皇帝ノ答書捧呈ノ爲謁見ノ期日照會竝ニ同答書和譯文送付ノ件……………二九六

附屬書

右答書和譯文……………二九七

附記一

露國代理公使口上振……………二九七

附記二

露國代理公使ニ對スル救答……………二九八

一四三 明治六年 六月 二十五日

瑞西國大統領官邸ニ於ケル岩倉大使等ト大統領領等トノ對話 條約改正ノ意圖陳述竝ニ右ニ關スル意見照會ノ件……………二九八

一四四 明治六年 六月 二十七日

和蘭國辦理公使ヨリ 條約改正ニ關シ交渉ノ件……………三〇〇

一四五 明治六年 六月 二十七日

和蘭國辦理公使ヨリ 日照會竝ニ同答書寫送付ノ件……………三〇二

附屬書

右答書和譯……………三〇二

附記一

和蘭國辦理公使捧呈ノ國書……………三〇三

附記二

和蘭國辦理公使ノ言上振……………三〇四

附記三

和蘭國辦理公使ニ對スル救答……………三〇四

一四六 明治六年 六月 三十日

上野外務卿代理ヨリ 岩倉大使一行西班牙國へ赴キ難キ事西班牙國代理公使宛 情等西班牙國政府へ申入方同大使へ通達シ置キタル旨通知ノ件……………三〇五

目次細目

一五

一四七 明治六年七月二日

三條太政大臣等ヨリ
岩倉大使等宛

西班牙國擾亂鎮定ノ期測リ難キニ付
西葡兩國訪問中止ノ儀兩國政府ニ通
知ノ上速ニ歸朝アリ度旨等通知ノ件

一四八 明治六年七月三日

岩倉大使等ヨリ
三條太政大臣等宛

奧地利瑞西兩國訪問ノ模様報告ノ件

一四九 明治六年八月五日

西班牙國代理公使ヨリ
副島外務卿宛

岩倉大使一行ノ西班牙國訪問中止間
題落著ノ儀了承ノ旨通知ノ件

一五〇 明治六年八月二十七日

伊藤副使ヨリ
副島外務卿等宛

大使一行近日横濱ヘ歸着スヘキ旨並
ニ田邊一等書記官支那諸開港場巡覽
希望ニ付歸朝延期ノ儀差許シタル旨
通知ノ件

一五一 明治六年九月三日

副島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

英國外務卿ヨリ日本駐劄英國公使ヘ
ノ訓狀和譯文送付ノ件

一五二 明治六年九月十日

坊城式部頭ヨリ
副島外務卿宛

岩倉大使歸朝後ノ復命並ニ天機奉伺
ノ爲參朝ノ期日通知ノ件

一五三 明治六年十二月十二日

寺島外務卿ヨリ
岩倉右大臣宛

丁抹國皇帝ヨリノ國書並ニ同國代任
公使ノ添書送付ノ件

附屬書一

十一月二十三日丁抹國代任公使ヨリ寺島外務卿
宛書翰

附記一

丁抹國皇帝國書和譯文並國書
明治八年六月二十九日丁抹國代任公使ヨリ寺島
外務卿宛
岩倉大使丁抹國訪問ニ對スル答禮ノ爲同國使節
渡來ノ旨通知ノ件

二

明治八年七月八日寺島外務卿丁抹國使節トノ
對話書
使節渡來ノ趣旨演述其ノ他ニ關スル件

三

明治八年七月九日丁抹國使節ヨリ寺島外務卿宛
國書捧呈ノ爲渡來ニ付謁見願出並ニ同國書寫送
付ノ件

四

附屬書

右國書

丁抹國使節ノ言上振

五

丁抹國使節ニ對スル敕答

一五四 明治六年十二月二十七日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

附屬書

瑞西國大統領復書送付ノ件
右瑞西國大統領ヨリノ國書

一五五 明治六年十二月二十八日

寺島外務卿ヨリ
岩倉右大臣宛

附屬書

岩倉大使一行ノ巡歴セル歐米各國政
府ニ對スル謝狀案送付伺ノ件並ニ之
ニ對スル太政大臣決裁
右謝狀案

第三章 寺島外務卿時代

第一節 條約改正交渉開始

一五六 明治六年十一月十五日

寺島外務卿ト各國公使トノ
對話書

條約改正ノ見込並ニ其ノ條項等ニ關
スル件

一五七 明治六年十二月二十六日

米國公使ヨリ
岩倉右大臣宛

條約改正ニ關スル意見開陳ノ件

一五八 明治七年二月十七日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

條約改正全權委員ヲ選任シ談判ニ取
掛リ度旨上申ノ件

一五九 明治七年四月二十五日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

條約改正案起草ノ爲一局開設ニ關ス
ル伺ノ件並ニ之ニ對スル指令

一六〇 明治七年四月二十九日

寺島外務卿ト米國公使トノ
對話書

條約改正ノ見込ニ關スル件……………三三四

別 錄

外務大丞森有禮撰文米國公使ピンハム朱筆評註
日米條約案……………三三五

一六一 明治七年五月十五日

三條太政大臣ヨリ
寺島外務卿宛海關稅則改訂ニ就テノ大藏省建議ニ
關シ意見問合ノ件……………三四〇

屬附書一

明治七年五月八日吉田大藏少輔ヨリ三條太政大臣宛書
翰寫
海關稅則ヲ改訂シ關稅自主權ヲ確立アリ度旨建
議ノ件……………三四〇

二

明治七年四月二十五日松方組稅頭等ヨリ大隈大藏卿等
宛書翰寫
海關稅則改訂ニ關シ建議ノ件……………三四一

三

擬定輸入稅則……………三四五

四

擬定輸入稅則翼八則……………三四六

一六二 明治七年五月二十日

森外務大丞ニ對スル外國條約改訂書案取調主任理事官任命ノ辭
令……………三四八

一六三 明治七年十月九日

寺島外務卿ト佛國公使トノ
對話書

條約改正談判開始ノ時期ニ關スル件……………三四八

一六四 明治八年三月二十七日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛條約改正著手ノ時機ナルニ付至急廟
議ヲ盡サレ度旨上申ノ件……………三四九

一六五 明治八年七月二十三日

大隈大藏卿ヨリ
寺島外務卿宛條約改正就中海關稅則改正ノ促進方
ニ就キ照會ノ件……………三四九

一六六 明治八年八月八日

太政官史官ヨリ
外務大丞等宛海關稅則改訂ニ關シ意見答申方督促
ノ件……………三五〇

一六七 明治八年十一月十日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛條約改正ハ稅權回復ヲ當初ノ目的ト
シテ談判ニ著手スヘキ旨伺ノ件竝ニ
之ニ對スル三條太政大臣決裁……………三五一

附屬書一

英、米、佛、獨各國駐劄帝國公使ニ送致スル訓狀
草案……………三五二

二

英清條約ト日英條約トノ比較論竝ニ我國收稅權
ノ外人ニ抑制セラレシ實例……………三五四

三

海關取押物ノ件ニ就キ英國公使及恭親王約諾ノ
條件……………三六二

四

英國公使ウエード氏ヨリ恭親王ニ贈レル條件改
正拔書……………三六二

五

橫濱稅關評價人ミルレル報告書附稅額比較表……………三六四

一六八 明治九年三月九日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛海關稅權擴張ノ爲訓狀及內諭ヲ以テ
英、佛、露、獨、米各國駐劄帝國公使ニ
達シタキ旨再上申竝ニ之ニ對スル三
條太政大臣決裁……………三六五

一六九 明治九年四月十七日

寺島外務卿ヨリ
米國公使宛駐米帝國公使ニ條約改正交渉方申遣
スヘキ旨內報ノ件……………三六五

一七〇 明治九年四月二十五日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛條約改正ニ關シ甲號訓狀、乙號內達
ノ趣意ニ基キ米國政府ヘ談判ニ及フ
可キ旨通達ノ件……………三六六

附屬書二

送達書類目錄……………三六七

二

四月二十四日寺島外務卿ヨリ米國駐劄吉田公使
宛訓狀……………三六七

三

四月二十五日寺島外務卿ヨリ米國駐劄吉田公使
宛乙號內達書……………三六九

四

雇入法律家考案……………三七〇

五

各港輸出入物品元價比較表……………三七一

六

明治八年八月六日「エチ、エム、ミルレル」ヨリ「イ、ペー
シン、スミス」宛書翰利譯文……………三七二

海關稅則改正ニ關スル意見回答ノ件……………三七二

明治八年十月十六日「ミルレル」ヨリ税額一覽表送達ノ旨通知セル書翰和譯文……………三七四

一七一 明治九年十一月二十七日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛……………三七四

一七二 明治九年十一月二十七日

寺島外務卿ヨリ
中野佛臨時代理公使宛……………三七五

一七三 明治十年一月二十五日

中野駐佛臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛……………三七六

一七四 明治十年二月十二日

中野駐佛臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)……………三七六

一七五 明治十年二月二十三日

中野佛臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛……………三七六

一七六 明治十年二月二十六日

寺島外務卿ヨリ
中野佛臨時代理公使宛……………三七八

一七七 明治十年五月四日

中野駐佛臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛……………三七八

一七八 明治十年七月十七日

寺島外務卿ヨリ
中野佛臨時代理公使宛……………三七八

一七九 明治十年七月二十七日

中野駐佛臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛……………三七九

一八〇 明治十年九月十八日

寺島外務卿ヨリ
中野駐佛臨時代理公使宛……………三八〇

一八一 明治十年十一月五日

寺島外務卿ヨリ
榎田駐露、青木駐獨各公使、
榎田駐伊臨時代理公使宛……………三八〇

一八二 明治十年十一月五日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使、中野駐佛臨
時代理公使宛……………三八一

一八三 明治十年十二月三日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英、中野駐佛各公使宛……………三八一

一八四 明治十年十二月三日

寺島外務卿ヨリ
榎田駐伊臨時代理公使、青
木駐獨、榎木駐露各公使宛……………三八一

一八五 明治十年十二月十四日

裁判權回復ニツイテ「ボアソナード」意見書……………三八二

一八六 明治十一年二月七日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛……………三九一

附屬書一

在歐帝國公使ニ送付スル訓狀……………三九二

二

同右内達……………三九四

三

各國政府ヨリ質問ヲ受ケタル時答フヘキ諸件覺書……………三九六

四

同右覺書……………三九七

一八七 明治十一年二月七日

寺島外務卿ヨリ
英國公使宛……………三九八

一八八 明治十一年二月九日

寺島外務卿ヨリ
駐英、露、獨、埃、帝國公使宛……………三九八

一八九	明治十一年二月十二日	獨國外務卿宛	條約改正ニ關スル訓狀ニ添ヘタル來示ノ趣諒承ノ旨回答ノ件	四〇〇
一九〇	明治十一年二月十六日	丁抹國外交事務官、西班牙國代理公使、瑞典、諾威國辦理公使宛	條約改正ニ關スル訓狀並ニ帝國政府ノ趣旨本國政府ニ通知方依頼ノ件	四〇一
一九一	明治十一年二月十八日	寺島外務卿ヨリ 駐佛、獨、埃諸國帝國公使宛	訓狀寫各國公使ヘ提示セル旨通知ノ件	四〇一
一九二	明治十一年二月十八日	寺島外務卿ヨリ 櫻田駐伊臨時代理公使宛	條約改正ニ關スル訓狀其他送付ノ件	四〇一
一九三	明治十一年二月二十日	西班牙國代理公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正ニ關スル訓狀等本國政府ニ通知方諒承ノ旨回答ノ件	四〇二
一九四	明治十一年四月五日	鯨島駐佛公使ヨリ 三條太政大臣、岩倉右大臣 寺島外務卿宛	稅權回復ニ關シ駐佛英國大使代理ト内談ノ件	四〇二
一九五	明治十一年五月九日	「シツバルド」ヨリ 吉田書記官宛	開港場界限外ニ於ケル外國商人ノ貨物並ニ商品賣買ニ關スル權利ニツイテ覺書呈出ノ件	四〇四
一九六	明治十一年十月七日	寺島外務卿ヨリ 鯨島駐佛、上野駐英、青木駐獨各公使宛	條約改正正式提議方訓令ノ件	四〇五
一九七	明治十一年十月七日	寺島外務卿ヨリ 鯨島駐佛、上野駐英、青木駐獨各公使宛	條約改正正式提議方訓令ノ件	四〇六
一九八	明治十二年六月十八日	西班牙國公使アルバレーズ 寺島外務卿宛	條約改正草案提示方依頼ノ件	四〇二
一九九	明治十二年六月二十六日	寺島外務卿ヨリ 西國公使宛	條約草案提示依頼ニ對シ回答ノ件	四一二
二〇〇	明治十二年八月六日	西國公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正談判委員派遣ニツイテ意見陳述ノ件	四一二
二〇一	明治十二年九月一日	寺島外務卿ヨリ 兩國公使宛	公使ニ委任アレハ特命ノ委員派遣ニ不及旨回答ノ件	四一三

第二節 對米 交涉

二〇二	明治九年六月十二日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	條約改正ニ關スル米國政府ノ疑問ニ對シ應答方請訓ノ件	四一四
二〇三	明治九年六月二十二日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅則適用上ノ疑問並ニ新ニ開ク港ニ關シ請訓ノ件	四一四
二〇四	明治九年六月二十二日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛(電信)	米國政府ノ疑問ニ對スル應答振回訓ノ件	四一七
二〇五	明治九年六月二十三日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	米國政府ノ疑問ニ對スル應答方回訓ノ件	四一七
二〇六	明治九年六月二十九日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅權回復ノ提議ニ對スル米國國務卿ノ意見稟報並ニ之ニ對スル措置ニ就キ請訓ノ件	四一七
二〇七	明治九年七月七日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	海關稅則改正ニ關スル米國國務卿意 向報告並ニ之ニ關スル意見具申ノ件	四一九
二〇八	明治九年九月七日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	米國ニ於テハ稅權回復交渉ノ好機會ナル旨報知ノ件	四二二
附屬書		吉田駐米公使ヨリ 米國ニ於テハ稅權回復交渉ノ好機會ナル旨報知ノ件	米國ト率先締約方ニ關スル意見具申並ニ日米條約私案送付ノ件	四二三
附屬書		日米條約私案		四二五

二〇九	明治九年九月二十二日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	訂正ヲ加ヘタル日米條約私案再送付 ニ關スル件	四二七
-----	------------	--------------------	---------------------------	-----

二一〇	明治九年九月二十三日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	訂正日米條約私案再送ノ件	四二八
-----	------------	--------------------	--------------	-----

附屬書

訂正條約案	四二八
-------	-----

二一一	明治九年十一月十日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	米國ト率先締約方ニ關スル意見ニ對 シ回訓ノ件	四二九
-----	-----------	--------------------	---------------------------	-----

二一二	明治十年一月四日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅權回復ノ儀ニ付米國政府ノ意嚮照 會方ニ關スル件	四三〇
-----	----------	--------------------	-----------------------------	-----

附屬書

明治九年十二月二十日吉田駐米公使ヨリ米國國務卿宛 書翰寫	四三〇
稅權回復ニ關スル米國政府ノ意嚮文書ニテ確認 方要請ノ件	四三〇

二二三	明治十年一月十九日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅權回復ニ關シテハ大統領ノ交代迫 レル爲豫メ協議シ難シトノ國務卿ノ 意向報告ノ件	四三一
-----	-----------	--------------------	--	-----

二二四	明治十年二月七日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅權回復ニ關スル米國政府ノ意嚮並 ニ同政府トノ交渉方針ニ就キ意見具 申ノ件	四三二
-----	----------	--------------------	---	-----

附屬書一

明治十年一月十日米國國務卿ヨリ吉田駐米公使宛書翰 和譯文	四三四
稅權回復ニ關スル米國政府ノ意嚮回答ノ件	四三四

二

明治十年二月五日吉田駐米公使ヨリ米國國務卿宛書翰 寫	四三五
右回答ニ對シ照會ノ件	四三五

二二五	明治十年二年十九日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	對米結約ニ付相當ノ權限附與方稟請 ノ件	四三七
-----	-----------	--------------------	------------------------	-----

附屬書一

明治十年二月十日米國國務卿ヨリ吉田駐米公使宛書翰 和譯文	四三七
稅權回復ニ關スル米國政府ノ意嚮再回答ノ件	四三七

二

明治十年二月十七日吉田駐米公使ヨリ米國國務卿宛書 翰寫	四三八
右回答ニ對シ再應照會ノ件	四三八

二二六	明治十年三月六日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	全權附與方稟請ノ件	四四〇
-----	----------	--------------------	-----------	-----

附屬書

明治十年二月二十八日米國國務卿ヨリ吉田駐米公使宛 書翰和譯文	四四〇
稅權回復ニ關シテハ公式談判前豫メ文書ニテ保 證スルヲ得サル旨回答ノ件	四四〇

二二七	明治十年三月二十九日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	米國政府トノ交渉方針ニ關シ回訓ノ 件	四四一
-----	------------	--------------------	-----------------------	-----

二二八	明治十年四月十二日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	內交渉續行方回訓ノ件	四四二
-----	-----------	--------------------	------------	-----

二二九	明治十年六月九日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	條約案提示方等ニ關シ請訓ノ件	四四二
-----	----------	------------------------	----------------	-----

二三〇	明治十年六月十一日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	日米條約締結方ニ關シ意見具申並ニ 全權附與方稟請ノ件	四四二
-----	-----------	--------------------	-------------------------------	-----

二三一	明治十年六月二十三日	森外務卿代理ヨリ 吉田駐米公使宛	條約案提示方等ニ就キテノ請訓ニ對 スル返電方ノ件	四四四
-----	------------	---------------------	-----------------------------	-----

二三二	明治十年六月二十五日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	米國國務卿ニ内シタル日米條約私 案ニ關シ報告ノ件	四四四
-----	------------	--------------------	-----------------------------	-----

附屬書

日米條約私案	四四五
--------	-----

二三三	明治十年七月十一日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	米國ト率先結約方ニ關シ訓令ノ件	四四七
-----	-----------	--------------------	-----------------	-----

二二四 明治十年七月十二日

寺島外務卿ヨリ
岩倉右大臣宛米國政府ト條約締結方ニ關スル訓狀
吉田駐米公使ニ附與方何ノ件竝ニ之
ニ對スル岩倉右大臣決裁…………… 四四七

附屬書 右訓狀案……………

四四八

二二五 明治十年八月十一日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛

日米條約交渉ニ關シ訓令ノ件…………… 四四九

附屬書

日米條約私案(二二ノ附屬書)ニ對スル修正案
竝ニ意見…………… 四五〇

二二六 明治十年八月二十日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

輸出税廢止問題ニ關シ請訓ノ件…………… 四五二

二二七 明治十年十月一日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

輸出税存廢問題ニ關シ請訓ノ件…………… 四五二

附屬書

修正條約案ニ附票ヲ以テセル吉田公使ノ意見…………… 四五四

二二八 明治十年十一月十六日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛(電信)

輸出税廢止問題ニ關シ回訓ノ件…………… 四五五

二二九 明治十年十一月十七日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛

日米條約交渉方針ニ關シ訓令ノ件…………… 四五六

附屬書

條約案第五條ノ修正案…………… 四五六

二三〇 明治十年十二月二十一日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛單獨結約方ニ關スル米國政府ノ態度
ニ關スル件…………… 四五六

二三一 明治十年十一月二十二日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛稅權回復ニ關シ打合セノ爲メ歸朝命
セラレ度旨稟請ノ件…………… 四五七

二三二 明治十年十二月二十二日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛稅權回復ニ關シ各國公使殊ニ英國公
使ト開談ノ旨通報ノ件…………… 四五八

二二三 明治十年十二月三十日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛既ニ附與セル訓狀ニ基キ談判續行方
回訓ノ件…………… 四五九

二二四 明治十一年一月十八日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)

開港ノ數及港名ニ關シ請訓ノ件…………… 四六〇

二二五 明治十一年一月十九日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

米國國務卿トノ交渉經過報告ノ件…………… 四六〇

附屬書

明治十一年一月十七日吉田駐米公使ト米國國務卿トノ
對話書
開港、輸出税廢止其他ニ關シ交渉ノ件…………… 四六二

二二六 明治十一年一月二十三日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛(電信)

開港ノ數及港名ニ關シ回訓ノ件…………… 四六三

二二七 明治十一年二月七日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛下ノ關外一港開港方等ニ關シ米國國
務卿ト會談ノ概略報告ノ件…………… 四六三

二二八 明治十一年二月九日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛在歐洲帝國公使ニモ稅權回復ニ就キ
任國政府ヘ發議セシムル旨通報竝ニ
米國トノ談判中開港ニ關スル請訓及
回訓電信寫送付ノ件…………… 四六四

二二九 明治十一年二月十九日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛米國政府ヨリ對案提示アリタル旨報
告ノ件…………… 四六四

二三〇 明治十一年二月二十六日

吉田駐米公使ヨリ
外務省宛(電信)條約私案第八條及沿海貿易ニ關シ請
訓ノ件…………… 四六五

二四一 明治十一年三月一日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)對米結約ノ全權御委任狀下付稟請ノ
件…………… 四六五

二四二 明治十一年三月五日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

米國政府ノ對案ニ關シ請訓ノ件…………… 四六五

附屬書

明治十一年二月二十一日米國國務卿ヨリノ手
交ノ條約修正案竝ニ之ニ朱書セル吉田公使ノ
意見…………… 四六七

二四三 明治十一年三月五日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛(電信)在歐帝國公使ヘノ訓狀寫送付セル旨
通報竝ニ右訓狀ノ趣旨ニ依リ談判可
能ナリヤ問合ノ件…………… 四七二

二四四 明治十一年 三月 六日
二四五 明治十一年 三月 九日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛
三條太政大臣宛

對米結約範圍ニ關シ意見具申ノ件…………… 四七三
海關稅條約調印ニ付吉田駐米公使ヘ
御委任狀附與方上申竝ニ之ニ對スル
三條太政大臣ノ決裁…………… 四七三

附屬書 委任狀案…………… 四七四

二四六 明治十一年 三月 十五日
二四七 明治十一年 三月 十九日
二四八 明治十一年 三月 十九日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛(電信)
寺島外務卿宛(電信)
寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

附屬書 右御委任狀案…………… 四七五

二四九 明治十一年 三月 二十一日
二五〇 明治十一年 三月 二十一日

吉田駐米公使ヘ附與ノ御委任狀…………… 四七六
吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

對米假約書締結方訓電ニ對シ意見具
申ノ件…………… 四七六

二五一 明治十一年 三月 二十一日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

日米條約ノ期限ニ關スル件…………… 四七八

二五二 明治十一年 三月 二十二日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛

對米結約ハ一時ノ假約トナスヘキ旨
訓令ノ件…………… 四七八

二五三 明治十一年 四月 二十日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛

對米結約ノ範圍ニ關シ回訓ノ件…………… 四七九

二五四 明治十一年 四月 二十日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

對米約書ニ一般條約改正及有効期
限ニ關スル新條項追加方意見具申ノ
件…………… 四八〇

附屬書

右追加條項案…………… 四八一

二五五 明治十一年 五月 二十二日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

米國政府對案修正方ニ關シ意見具申
竝ニ請訓ノ件…………… 四八一

二五六 明治十一年 五月 二十六日

吉田駐米公使ヨリ
外務省宛(電信)

對約案ニ對スル米國ノ修正提書ニ對
スル米國ノ修正提案ニ關シ請訓ノ件…………… 四八四

二五七 明治十一年 五月 三十日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛(電信)

米國ノ修正提案ニ關シ回訓ノ件…………… 四八四

二五八 明治十一年 六月 四日

吉田駐米公使ヨリ
外務省宛

關稅差別待遇規定ニ關シ請訓ノ件…………… 四八五

二五九 明治十一年 六月 六日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛

米國政府對案修正方ニ關シ訓令ノ件…………… 四八五

二六〇 明治十一年 六月 七日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

米國政府對案修正方ニ關シ請訓ノ件…………… 四八六

二六一 明治十一年 六月 七日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛(電信)

米國政府希望ノ如ク結約スヘキ旨回
訓ノ件…………… 四八七

二六二 明治十一年 六月 七日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

關稅差別待遇規定ニ關シ回訓了承ノ
旨回答ノ件…………… 四八七

二六三 明治十一年 六月 十八日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米公使宛

米國政府對案修正方ニ關シ訓令ノ件…………… 四八七

二六四 明治十一年 六月 二十五日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

談判經過報告竝ニ關稅差別待遇規定
ニ關スル米國政府ノ意嚮內報ノ件…………… 四八八

二六五 明治十一年 七月 二日

吉田駐米公使ヨリ
寺島外務卿宛

關稅差別待遇及船稅ニ關スル交渉經
過報告ノ件…………… 四八八

二六六 明治十一年 七月 四日

寺島外務卿宛

關稅差別待遇及船稅ニ關スル交渉經
過報告ノ件…………… 四九〇

二六七 明治十一年 七月 六日

米國公使ヨリ
寺島外務卿宛

改稅ニ關スル「ジャパン・ガゼット」
紙記事ニ關シ照會ノ件…………… 四九〇

二六八 明治十一年 七月 十三日

寺島外務卿ヨリ
米國公使宛

改稅ニ關スル「ジャパン・ガゼット」
紙記事ニ關シ回答ノ件…………… 四九二

二六九	明治十一年七月十三日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	關稅差別待遇及船稅ニ關シ訓電ノ趣 旨説明ノ件	四九三
二七〇	明治十一年七月二十四日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	船稅ニ關スル交渉經過報告ノ件	四九四
二七一	明治十一年七月二十五日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	日米約書調印ノ旨報告ノ件	四九五
二七二	明治十一年七月二十五日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	日米約書調印ノ旨報告ノ件	四九五
二七三	明治十一年七月二十七日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	日米約書調印期日間合ノ件	四九五
二七四	明治十一年八月七日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	約書調印ニ至ル交渉經過報告ノ件	四九六
二七五	明治十一年八月十五日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	日米約書調印ノ報告了承ノ件	四九八
二七六	明治十一年九月九日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛(電信)	日米約書條項秘密取扱方訓令ノ件	四九八
二七七	明治十一年九月二十日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	歐洲諸國トノ條約改正交渉ニ付米國 政府ノ助勢懇請方訓令ノ件	四九八
二七八	明治十一年九月二十一日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	我稅權回復要求ニ對スル露國政府ノ 態度ニ關スル件	四九九
二七九	明治十一年十月七日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正交渉ニ付米國政府ノ助勢懇 請ノ件	四九九
二八〇	明治十一年十月二十四日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛(電信)	在英佛帝國公使ニ對シ日米約書ニ關 シ任國政府ヨリ質問アル場合ノ返答 振訓令ノ件	五〇〇
二八一	明治十一年十月二十四日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	約書內容秘密保持方訓令ノ件	五〇一
二八二	明治十一年十月二十五日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	批准前ノ日米約書秘密保持ニ關スル 米國政府ノ意嚮報告ノ件	五〇一

二八三	明治十一年十月二十八日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛(電信)	米國公使歸米ノ旨通報竝ニ同公使華 盛頓到著迄同地滞在方訓令ノ件	五〇一
二八四	明治十一年十一月六日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	日米條約書公表時期ニ關スル件	五〇二
二八五	明治十一年十一月六日	吉田駐米公使ヨリ 寺島外務卿宛	米國公使華盛頓到着迄同地滞在方訓 令ニ對シ意見具申ノ件	五〇二
二八六	明治十一年十一月七日	寺島外務卿ト英國公使トノ 對話書	日米條約書內覽方申入ノ件	五〇三
二八七	明治十一年十一月七日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛(電信)	米國公使本國政府ヘ日米約書ニ關シ 建言書提出ノ旨通報ノ件	五〇三
二八八	明治十一年十一月八日	寺島外務卿ヨリ 吉田駐米公使宛	米國公使ノ建言書ニ關スル件	五〇四
二八九	明治十一年十二月四日	附屬書 右建言書拔萃覺書	米國大統領議會宛教書中日米約書ニ 言及ノ旨報告ノ件	五〇七
二九〇	明治十一年十二月七日	吉田駐米公使ヨリ 外務省宛(電信)	米國大統領議會宛教書中日米約書ニ 言及ノ旨報告ノ件	五〇七
二九一	明治十一年十二月二十六日	吉田駐米臨時代理公使ヨリ 寺島外務卿宛	日米約書ニ關スル米國大統領ノ演述 書送付ノ件	五〇七
		附屬書 右演述書和譯文	日米約書批准ノ件米國上院可決ノ旨 報告ノ件	五〇八
		附屬書一 明治十一年十二月二十日米國國務卿ヨリ吉田駐米臨時 代理公使宛書翰寫 同件	日米約書大要米國新聞紙掲載ノ事情 內報ノ件	五〇八 五一〇
二九二	明治十一年十二月二十六日	吉田駐米臨時代理公使ヨリ 寺島外務卿宛	日米約書大要米國新聞紙掲載ノ事情 內報ノ件	五一〇

二九三 明治十二年 一月 三日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)米國國務長官各國公使ニ日米約書提
示ニ關シ請訓ノ件 五一

二九四 明治十二年 一月 六日

吉田駐米臨時代理公使宛
(電信)米國國務長官各國公使ニ日米約書提
示ニ關シ回訓ノ件 五一

二九五 明治十二年 一月 七日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

日米約書公表問題ニ關スル件 五一

二九六 明治十二年 一月 十一日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

日米約書御批准方上申ノ件 五一

二九七 明治十二年 一月 十一日

吉田駐米臨時代理公使宛
寺島外務卿ヨリ

日米約書公表問題ニ關スル件 五一

二九八 明治十二年 一月 二十五日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米臨時代理公使宛

日米約書批准ニ關スル件 五一

二九九 明治十二年 二月 三日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛米國大統領ノ日米條約批准濟等ニ關
シ報告ノ件 五四

附屬書一

明治十二年一月十七日米國國務卿ヨリ吉田駐米臨時代
理公使宛書翰寫

日米約書批准交換ノ時期ニ關シ申入ノ件 五一

二

明治十二年一月二十日吉田駐米臨時代理公使ヨリ米國
國務卿宛書翰寫

右ニ關シ回答ノ件 五一

三〇〇 明治十二年 二月 七日

日米約書御批准書

日米約書御批准交換全權御委任方上
申ノ件 五一

三〇一 明治十二年 二月 十七日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛日米約書御批准交換全權御委任方上
申ノ件 五一

三〇二 明治十二年 二月 二十六日

日米約書御批准交換全權御委任狀

日米約書御批准交換全權御委任狀送付
ノ件 五一

三〇三 明治十二年 三月 四日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米臨時代理公使宛米國政府ニ對シ歐洲各國トノ條約改
正談判促進方斡旋ニ關シ報告ノ件 五一

三〇四 明治十二年 三月 六日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛倫敦會議開催ニ關シ帝國政府ノ意嚮
問合ノ件 五一

三〇五 明治十二年 三月 十九日

寺島外務卿ト米國公使トノ
對話書英國政府ヨリ倫敦會議招請ニ關シ問
合ノ件 五一

三〇六 明治十二年 四月 一日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)倫敦會議ハ英國政府ニヨリ中止ノ旨
回答ノ件 五一

三〇七 明治十二年 四月 四日

吉田駐米臨時代理公使宛
(電信)日米約書御批准書及委任狀領收竝ニ
右旨米國國務省ヘ通知セル旨報告ノ
件 五二

三〇八 明治十二年 四月 五日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛附屬書一
明治十二年三月三十一日吉田駐米臨時代理公使ヨリ米
國國務卿宛書翰ノ寫
右ノ通知ノ件 五二

附屬書

倫敦會議中止ノ件 五二

三〇九 明治十二年 四月 七日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛日米約書批准交換布告濟ノ旨報告ノ
件 五二

三一〇 明治十二年 四月 十日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)英國政府倫敦會議招請及中止ノ事情
概説ノ件 五二

三一一 明治十二年 四月 十日

寺島外務卿ヨリ
吉田駐米臨時代理公使宛

日米條約批准交換終了ニ付報告ノ件 五二

三一二 明治十二年 四月 二十一日

吉田駐米臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛附屬書一
明治十二年四月七日米國國務卿ヨリ吉田駐米臨時代理
公使宛書翰寫
日米約書批准交換日通知ノ件 五二

附屬書一

明治十二年四月八日米國大統領批准書和譯文 五二

三

明治十二年四月十六日米國國務卿ヨリ吉田駐米臨時代
理公使宛書翰寫
日米約書批准日附ニ關スル件 五二

四

日米約書及大統領布告文 五二

三二三 明治十二年 七月 一日

日米約書布告 五二

第三節 對英交涉 附 對葡交涉

三二四	明治十一年五月十日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛	對英交涉開始ニ付報告ノ件	五三五
三二五	明治十一年八月六日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛	交渉經過問合ノ件	五三六
三二六	明治十一年十月十八日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅權回復交渉ニ關スル意見具申竝ニ 交渉經過報告ノ件	五三六

附屬書一

明治十一年五月四日	上野駐英公使ヨリ英國外務卿宛書翰寫	稅權回復ノ必要開陳ノ件	五四二
-----------	-------------------	-------------	-----

二	明治十一年五月十四日	上野駐英公使ヨリ英國外務卿宛書翰寫	改正稅目案送付ノ件	五四八
---	------------	-------------------	-----------	-----

三	明治十一年五月十六日	英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛書翰寫	右ニ對シ回答ノ件	五四九
---	------------	-------------------	----------	-----

三二七 明治十一年十一月七日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛

稅權回復要求ニ對スル英國ノ意嚮其他交渉報告、新通商條約締結方意見具申竝ニ日米約書締結問題ニ關スル件	五四九
---	-----

附屬書二

明治十一年十月四日	英國外務省ニ於ケル英國外務大輔ト在英公使館御書記官トノ對話書	日米約書竝ニ稅權及諸權回復ニ關シ意見交換ノ件	五五三
-----------	--------------------------------	------------------------	-----

二	明治十一年十月十七日	英外務省ニ於ケル英國外務大輔ト在英公使館御書記官トノ對話書	日米約書締結ニ關シ辯明及意見交換ノ件	五六七
---	------------	-------------------------------	--------------------	-----

三二八 明治十一年十一月十三日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛

交渉經過報告竝ニ新通商條約締結方ニ關シ稟請ノ件	五七九
-------------------------	-----

附屬書一

明治十一年十一月二日	英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛書翰寫	稅權回復要求ニ對スル英國ノ意嚮回答ノ件	五八一
------------	-------------------	---------------------	-----

二	明治十一年十一月十三日	上野駐英公使ヨリ英國外務卿宛書翰寫	右ニ對シ辯駁ノ件	五八六
---	-------------	-------------------	----------	-----

三二九 明治十二年一月十八日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛(電信)

條約改正ノ時期ニ關シ英國ノ意嚮返電方訓令ノ件	五九九
------------------------	-----

三三〇 明治十二年一月二十日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)

條約改正ノ時期ニ關シ英國ノ意嚮回報ノ件	五九九
---------------------	-----

三三一 明治十二年一月二十二日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛

交渉續行方訓令ノ件	六〇〇
-----------	-----

三三二 明治十二年一月三十一日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正豫告、英國政府ノ改正條件及談判開催地等ニ關スル交渉	六〇〇
-------------------------------	-----

附屬書二

明治十一年十二月二十一日	英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛書翰寫	條約改正豫告及改正條項實施條件ニ關シ申シ入レノ件	六〇三
--------------	-------------------	--------------------------	-----

二	明治十一年十二月二十七日	上野駐英公使ヨリ英國外務卿宛書翰寫	右ニ對シ回答ノ件	六〇四
---	--------------	-------------------	----------	-----

三	明治十一年十二月十八日	上野駐英公使ヨリ英國外務卿宛書翰寫	往翰所載ノ我國輸出入額ニ關シ辯明ノ件	六〇五
---	-------------	-------------------	--------------------	-----

四	明治十一年十二月三十一日	英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛書翰寫	右ニ對シ回答ノ件	六〇六
---	--------------	-------------------	----------	-----

三三三 明治十二年二月六日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛(電信)

條約改正商議ノ場所及時期ニ關シ英國政府ノ意嚮問合ノ件	六〇六
----------------------------	-----

三三四	明治十二年 二月 六日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	英國政府ニ於テハ條約改正商議ノ場 所決定セルモ近ク倫敦會議開催方通 告アルヘキ旨回答ノ件	六〇七
三三五	明治十二年 二月 十七日	寺島外務卿ト英國公使トノ 對話書	倫敦會議開催ニ關シ交渉ノ件	六〇七
三三六	明治十二年 二月 十八日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	英國政府倫敦會議開催方希望申入ノ 旨報告竝ニ右ニ關シ請訓ノ件	六一〇
三三七	明治十二年 二月 二十一日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛(電信)	倫敦會議開催ニ關シ回訓ノ件	六一〇
三三八	明治十二年 二月 二十二日	寺島外務卿ト英國公使トノ 對話書	倫敦會議及條約改正範圍等ニ關シ交 渉ノ件	六一一

附屬書一

明治十二年二月二十日英國外務卿ヨリ英國公使宛書翰	六二一
倫敦會議ニ對スル帝國政府ノ意嚮打診方訓令ノ 件	六二四

二

英國公使ヨリ英國外務卿宛電信寫 右ニ對シ回答ノ件	六二四
-----------------------------	-----

三三九	明治十二年 二月 二十四日	寺島外務卿ヨリ 英國公使宛	英國公使ヨリ英國外務卿宛電信案文 中訂正方要求ノ件	六二五
三三〇	明治十二年 二月 二十五日	寺島外務卿ト英國公使館書 記官トノ對話書	電信案文訂正ニ關シ交渉ノ件	六二五
三三一	明治十二年 二月 二十六日	寺島外務卿ヨリ 上野公使宛	商議開催地問題ニ關シ訓令ノ件	六二六
三三二	明治十二年 二月 二十七日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	倫敦會議ニ關シ英國外務大輔ヨリ聞 込報告ノ件	六二七
三三三	明治十二年 二月 二十八日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正豫告、談判開催地、新通商條 約締結及連合會議等ニ關シ交渉經過 報告ノ件	六二七

附屬書一

明治十二年二月十五日英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛 書翰寫	六二二
---------------------------------	-----

二

倫敦會議開催ニ對スル帝國政府ノ意嚮照會ノ件 明治十二年二月二十七日鈴木書記官ト英國外務大輔ト ノ對話書	六二二
倫敦會議提議ノ事項問合ノ件	六二二

三三四	明治十二年 三月 三日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	稅目改正ニ關スル英國政府ノ意嚮報 告ノ件	六二四
三三五	明治十二年 三月 五日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛	稅目協定問題ニ關シ訓令ノ件	六二四
三三六	明治十二年 三月 六日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛(電信)	稅目協定問題及條約改正商議ノ場所 ニ關シ訓令ノ件	六二五
三三七	明治十二年 三月 六日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	英國政府各國政府ニ對シ倫敦會議招 請狀ヲ送達セル旨報告ノ件	六二六
三三八	明治十二年 三月 十日	鯨島駐佛、上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	稅權回復ノ困難ナル旨報告竝ニ通商 條約締結方評議アリ度旨稟請ノ件	六二六
三三九	明治十二年 三月 十日	寺島外務卿ト英國公使トノ 對話書	條約改正商議ノ場所及稅權問題等ニ 關シ會談ノ件	六二七
三四〇	明治十二年 三月 十三日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛(電信)	條約改正談判ヲ東京ニ於テ開始方ニ 關シ英國政府ノ意嚮問合ノ件	六二九
三四一	明治十二年 三月 二十四日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛(電信)	倫敦會議撤回方竝ニ東京ニ於テ談判 開始ニ關スル英國政府ノ意嚮問合方 訓令ノ件	六二九
三四二	明治十二年 三月 二十六日	寺島外務卿ヨリ 上野駐英公使宛	保護關稅及談判開催地問題ニ關シ訓 令ノ件	六三〇
三四三	明治十二年 三月 二十八日	上野駐英公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	英國政府東京會商ニ同意セル旨回答 ノ件	六三一

三四四 明治十二年三月二十八日

上野駐英公使ヨリ
英國外務卿宛關稅引上限度ニ關スル交渉經過並ニ
東京ニテ條約改正談判開始方英國政
府同意ノ旨報告ノ件……………六三一

附屬書

明治十二年三月二十六日上野駐英公使ヨリ英國外務卿
宛書翰寫
稅則改正及談判開催地ニ關シ辯明ノ件……………六三二

三四五 明治十二年三月三十一日

寺島外務卿ト英國公使トノ
對話書條約改正談判開催地及其ノ期日等ニ
關シ應答ノ件……………六三四

三四六 明治十二年四月四日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛關稅引上限度及新稅則豫告ニ關スル
交渉經過並ニ之ニ對スル英國政府ノ
態度報告ノ件……………六三五

附屬書一

明治十二年四月一日英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛書
翰寫……………六三九

二

東京ニ於テ談判開始方同意ナル旨回答ノ件……………六四〇

英國政府東京ニ於ケル談判同意ナル旨ノ電信案
確認方申入ノ件……………六四〇

三

明治十二年四月一日英國外務卿ヨリ上野駐英公使宛書
翰寫……………六四〇

右ニ對シ回答ノ件……………六四〇

三四七 明治十二年四月九日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛倫敦會議開催發議ノ顛末詳報方訓令
ノ件……………六四一

三四八 明治十二年四月九日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛(電信)英國政府ノ東京會商ニ對スル態度ニ
關シ報告ノ件……………六四二

三四九 明治十二年四月十五日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛(電信)東京會商開始ノ期日ニ關シ英國政府
ニ問合方訓令ノ件……………六四二

三五〇 明治十二年四月十八日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛東京會商開始ノ期日英國側委員等ニ
關スル交渉ノ經過報告ノ件……………六四二

三五一 明治十二年四月十八日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛會商地及稅目協定問題ニ關シ訓令ノ
件……………六四四

三五二 明治十二年四月二十五日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛東京會商ニ關シ英國政府ト打合セノ
件……………六四五

附屬書一

明治十二年四月二十一日英國外務卿ヨリ上野駐英公使
宛書翰寫
改正案英國公使ニ提示アラハ本國政府ニ於テ他
ノ條約諸國ト商議ヲ遂クヘキ旨回答ノ件……………六四六

二

明治十二年三月二十六日在英日本公使館御履書記ヨリ
英國外務大輔宛書翰寫
條約改正ニ關スル意見開陳ノ件……………六四七

三五三 明治十二年四月三十日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛(電信)

歸朝方命令ノ件……………六五四

三五四 明治十二年五月五日

寺島外務卿ト英國公使トノ
對話書

東京會商ニ關シ會談ノ件……………六五四

三五五 明治十二年五月六日

寺島外務卿ト英國公使トノ
對話書談判ノ形式(國別カ合同カ)及改正稅
率ニ關シ交渉ノ件……………六五五

三五六 明治十二年五月二十二日

上野駐英公使ヨリ
寺島外務卿宛

歸朝出發期日報告ノ件……………六五七

三五七 明治十二年六月十三日

寺島外務卿ヨリ
富田代理公使宛東京ニ於ケル談判ハ各國別ニ開キ度
方針ナル旨訓令ノ件……………六五七

三五八 明治十二年七月十五日

英國公使ヨリ
寺島外務卿宛各國合同談判ノ爲メノ基礎案提出ア
ル迄ハ英國政府ハ條約改正談判ニハ
應セサル旨申入ノ件……………六五八

三五九 明治十一年三月十八日

寺島外務卿ヨリ
上野駐英公使宛條約改正ニツキ葡萄牙國政府意向問
合セノ件……………六五九

附屬書

條約改正ノ義葡萄牙政府ヘ問合方ヲ上野公使ヘ達
スル書寫……………六五九

第四節 對佛交涉 附對白交涉

三六〇	明治十一年 四月 十五日	鮫島駐佛公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	訓狀翻譯文中訂正方請訓ノ件	六六〇
三六一	明治十一年 四月 十六日	鮫島駐佛公使ヨリ 鮫島駐佛公使宛(電信)	訓狀翻譯文訂正不可能ナル旨回訓ノ件	六六〇
三六二	明治十一年 四月 十九日	鮫島駐佛公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正談判開始準備方ニ關シ報告ノ件	六六一
三六三	明治十一年 五月 三日	鮫島駐佛公使ヨリ 寺島外務卿宛	談判開始ノ見込ニ關シ報告ノ件	六六一
三六四	明治十一年 五月 十七日	鮫島駐佛公使ヨリ 寺島外務卿宛	訓狀翻譯文中字句訂正ノ上書翰ヲ添ヘ佛國外務卿へ提出セル旨報告ノ件	六六二
		附屬書	明治十一年五月六日鮫島駐佛公使ヨリ佛國外務卿宛書翰 條約改正ノ必要理由説明ノ件	六六三
三六五	明治十一年 六月 二十五日	寺島外務卿ヨリ 鮫島駐佛公使宛	對米交渉景況内報ノ件	六六九
三六六	明治十一年 十月 十八日	鮫島駐佛公使ヨリ 三條太政大臣等宛	佛白兩國政府ノ回答振及他各國ノ態度等報告ノ件	六七〇
		附屬書一	明治十一年八月三十日佛國外務卿ヨリ鮫島駐佛公使宛書翰 稅權回復要求ニ對シ回答ノ件	六七三
		二	明治十一年(月日不明)佛國外務卿陳述要旨 稅權回復ニ對スル佛國政府ノ意圖ニ關スル件	六七七
三六七	明治十二年 一月 六日	松方大藏大輔(在佛)鮫島駐佛公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	吉原大藏書記官携行ノ訓令ニ副ヒ難キ旨回答ノ件	六七八
三六八	明治十二年 一月 廿二日	寺島外務卿ヨリ 鮫島駐佛公使宛	貿易條約締結案ニ關スル訓令ノ件	六七八
三六九	明治十二年 二月 十三日	寺島外務卿ト佛國公使トノ對話書	稅權及法權回復ニ關シ會談ノ件	六七九
三七〇	明治十二年 二月 二十六日	寺島外務卿ヨリ 鮫島駐佛公使宛	貿易條約締結案及談判開催地ニ關シ訓令ノ件	六八一
三七一	明治十二年 三月 五日	寺島外務卿ヨリ 鮫島駐佛公使宛	貿易條約締結案ニ對シテハ先ノ訓狀ノ趣旨徹底方訓令ノ件	六八二
三七二	明治十二年 三月 十七日	寺島外務卿ト佛國代理公使トノ對話書	談判開催地ニ關シ應答ノ件	六八三
三七三	明治十二年 三月 二十二日	鮫島駐佛公使ヨリ 三條太政大臣等宛	貿易條約締結方竝ニ之カ全權派遣方意見具申ノ件	六八三
三七四	明治十二年 四月 四日	鮫島駐佛公使ヨリ 三條太政大臣等宛	貿易條約締結方廟議決定アリ度旨稟請ノ件	六八五
		附屬書一	條約改正請求大意書	六八八
		二	明治十二年二月二十七日獨逸國政府ヨリ佛國政府宛書翰要旨 日本政府ハ倫敦會議開催ニ不同意ナル旨通知ノ件	六九二
		三	明治十二年三月二十六日佛國政府ヨリ獨逸國政府宛書翰要旨 右ニ關シ回答ノ件	六九三
		四	明治十二年三月二十一日佛國政府ヨリ英國政府宛書翰要旨 倫敦會議招請ニ對シ回答ノ件	六九三
		五	條約改正ニ關スル明治十二年一月二十九日英國公使及「アダムス」間往復私信拔萃	六九三
三七五	明治十二年 四月 九日	寺島外務卿ヨリ 鮫島駐佛公使宛	佛國公使ヨリ岩倉右大臣へ差出シタル條約改正案送付ノ件	六九四

附屬書一

右條約改正案中日佛兩國ヨリ互ニ讓與セル權利ノ要略……………六九四

二

右條約改正案……………六九八

談判地ヲ東京トナスヘキ旨申入方訓令ノ件……………七一二

三七六 明治十二年 四月十八日
寺島外務卿ヨリ
鯨島駐佛公使宛

三七七 明治十二年 五月二日
鯨島駐佛公使ヨリ
三條太政大臣等宛

貿易條約締結問題ニ關シ請訓ノ件……………七一二

三七八 明治十二年 六月十三日
鯨島駐佛公使ヨリ
三條太政大臣等宛

改正談判東京開催ニ佛國政府同意ノ旨報告ノ件……………七二三

附屬書

條約改正請求大意書……………七二四

三七九 明治十二年 七月四日
寺島外務卿ヨリ
鯨島駐佛公使宛

貿易條約締結問題ニ關スル件……………七二六

三八〇 明治十二年 七月十一日
鯨島駐佛公使ヨリ
寺島外務卿宛

改正談判東京開催ニ關シ佛、白兩國政府トノ交渉經過報告ノ件……………七二七

附屬書一

明治十二年六月十一日鯨島駐佛公使ヨリ佛國外務卿宛書翰和譯文……………七一九

談判東京開催ニ對シ回答方督促ノ件……………七二〇

明治十二年六月十二日鯨島駐佛公使ヨリ佛國外務卿宛書翰和譯文……………七二〇

東京開催ニ對シ口頭ヲ以テ同意アリタルニ對シ謝意申入ノ件……………七二〇

三

明治十二年六月十五日鯨島駐佛公使ヨリ佛國外務卿宛書翰和譯文……………七二〇

東京開催ニ同意ノ旨回答並ニ改正稅目案提示方要請ノ件……………七二〇

三八一 明治十二年 八月八日
鯨島駐佛公使ヨリ
寺島外務卿宛

東京談判開催ニ關スル歐洲各國政府ノ意向報告ノ件……………七二一

三八二 明治十一年 七月十一日
鯨島駐佛公使ヨリ
寺島外務卿宛

白耳義國外務卿ト面會條約改正談判ノ件……………七二二

附屬書

訓狀ノ旨意解說同外務卿ヘ交付ノ書翰……………七二三

三八三 明治十一年 十月十八日
鯨島駐佛公使ヨリ
三條太政大臣等宛

白耳義國ノ模様報告ノ件……………七二五

附屬書一

白國政府ヨリノ返翰……………七二五

白國外務卿陳述ノ主旨撮記……………七二六

三八四 明治十二年 七月十一日
鯨島駐佛公使ヨリ
寺島外務卿宛

白耳義國外務卿ト往復ノ書翰別紙丁戊號差進候件……………七二六

附屬書一

白國外務卿ヘノ書翰譯文……………七二七

白國外務卿ヨリノ返翰譯文……………七二七

第五節 對獨交涉 附 對蘭交涉

三八五 明治十一年 五月三十日
青木駐獨公使ヨリ
寺島外務卿宛

獨逸國政府ト條約改正交渉開始ノ旨報告ノ件……………七二九

三八六 明治十一年 六月六日
青木駐獨公使ヨリ
寺島外務卿宛

獨逸國政府トノ條約改正交渉經過報告ノ件……………七二九

附屬書一

明治十一年五月二日青木駐獨公使ト獨逸國外務大書記官ト對話書……………七三〇

稅權回復ニ關スル件……………七三〇

二

明治十一年五月七日青木駐獨公使ト獨逸國外相ト對話書……………七三五

三

明治十一年五月七日青木駐獨公使ヨリ獨逸國外相宛書翰……………七三七

條約改正要求ノ理由及趣旨開陳ノ件……………七三七

目次細目

三八七	明治十一年 八月 三日	寺島外務卿ヨリ 青木駐獨公使宛(電信)	條約改正ニ關シ獨逸國政府へ開談ノ 時期並ニ同國政府ノ回答振報告方訓 令ノ件	七四四
三八八	明治十一年 八月 六日	寺島外務卿ヨリ 青木駐獨公使宛	條約改正交渉經過報告方督促ノ件	七四四
三八九	明治十一年 八月 八日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	獨逸國政府ヨリハ未タ回答ニ接セザ ル旨回答ノ件	七四四
三九〇	明治十一年 八月 八日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正ニ關スル獨逸國政府ノ回答 報告方ノ件	七四四
三九一	明治十一年 八月 二十日	寺島外務卿ヨリ 青木駐獨公使宛	稅權回復ニ對スル獨逸國政府ノ回答 振ニ關シ訓令ノ件	七四五
三九二	明治十一年 十二月 九日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	稅權回復ニ對スル獨逸國政府ノ書面 回答接受並ニ其ノ要旨報告ノ件	七四六
三九三	明治十一年 十二月 十一日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正ニ關スル獨逸國政府ヨリノ 回答振報告ノ件	七四六
附屬書一				
明治十一年十二月五日獨國外相ヨリ青木駐獨公使宛書翰寫				
同伴ニ關スル獨逸政府回答ノ件				
二 右和譯文				
三九四	明治十二年 一月 十六日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅則ニ關スル獨逸國政府ノ意嚮內報 ノ件	七五一
三九五	明治十二年 二月 八日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	倫敦會議開催ニ對スル獨逸國政 府ノ意嚮報告ノ件	七五二
三九六	明治十二年 二月 八日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	英國ヨリ倫敦會議開催提議並ニ之ニ 對スル獨逸國政府ノ意嚮報告ノ件	七五三
三九七	明治十二年 二月 十一日	寺島外務卿ト獨逸國代理公 使トノ對話書	倫敦會議開催ニ關スル件	七五四

四四

附記

獨逸國政府ヨリ駐日同國代理公使宛訓電英譯文

三九八	明治十二年 二月 十二日	寺島外務卿ヨリ 青木駐獨公使宛	倫敦會議開催ニ對スル獨逸國政府ノ 意嚮報告ニ關シ訓令ノ件	七五五
三九九	明治十二年 二月 十三日	寺島外務卿ト獨逸國代理公 使トノ對話書	倫敦會議開催等ニ關スル件	七五六
四〇〇	明治十二年 二月 十三日	青木駐獨公使ヨリ 青木駐獨公使宛(電信)	倫敦會議開催ニ對スル帝國政府ノ意 嚮獨逸國政府へ申入方訓令ノ件	七五九
四〇一	明治十二年 二月 二十日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	倫敦會議參加ニ關シ請訓ノ件	七五九
四〇二	明治十二年 二月 二十四日	寺島外務卿ト獨逸國代理公 使トノ對話書	條約改正談判開催等ニ關スル件	七六〇
四〇三	明治十二年 二月 二十六日	寺島外務卿ヨリ 青木駐獨公使宛	倫敦會議開催問題ニ關シ訓令ノ件	七六三
四〇四	明治十二年 二月 二十七日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	獨逸國外務卿我方改正案ノ儘ニテハ 不同意ナル旨內話ノ件	七六四
四〇五	明治十二年 二月 二十七日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	稅權回復ニ關スル獨逸國外務卿ノ內 意報告並ニ意見具申ノ件	七六四
四〇六	明治十二年 三月 五日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	獨逸國代理公使トノ對話書送付ノ件	七六六
四〇七	明治十二年 三月 二十七日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	談判開催ニ關スル獨逸國政府トノ交 渉經過報告ノ件	七六七
四〇八	明治十二年 四月 一日	寺島外務卿ト獨逸國代理公 使トノ對話書	倫敦會議開催提議ノ事情等ニ關スル 件	七六八
四〇九	明治十二年 四月 四日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	歸任ノ途ニ着ケル獨逸國辦理公使ト 內談ノ要旨內報ノ件	七七〇
四一〇	明治十二年 四月 十三日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛(電信)	獨逸國公使東京ニ於テ開催セラルヘ キ商議ニ參加ノ件	七七〇

目次細目

四五

四一	明治十二年 四月 十七日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	東京ニテ談判開催ニ關シ獨逸國政府 トノ交渉ノ經過報告ノ件	七七
四二	明治十二年 四月 十八日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正談判ノ目的ニ關シ訓令ノ件	七七
四三	明治十二年 四月 二十五日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	獨逸國政府トノ交渉經過報告並ニ意 見具申ノ件	七七
四四	明治十二年 四月 三十日	青木駐獨公使宛(電信) 寺島外務卿ヨリ	東京ニテ談判開催ニ付歸朝方訓令ノ 件	七七
四五	明治十二年 五月 二十九日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正交渉ニ關スル獨逸國政府ノ 内意報告ノ件	七七
四六	明治十二年 六月 二十日	寺島外務卿ヨリ 獨逸國公使宛	東京商議獨逸委員受任ノ實否開合ノ 件	七七
四七	明治十二年 六月 二十三日	獨逸國公使ヨリ 寺島外務卿宛	東京商議獨逸委員任命ニ關シ回答ノ 件	七七
四八	明治十二年 七月 二日	獨逸國公使ヨリ 寺島外務卿宛	商議開始前條約改正案提出方要求ノ 件	七七
四九	明治十二年 八月 一日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	蘭國赴任ノ儀遷引ノ事情通知ノ件	七七
四〇	明治十二年 一月 九日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正ニツキ蘭國政府回答ノ件	七七
		附屬書一	委任狀奉呈ノ爲メ蘭國皇帝謁見ノ日限開合セノ 件	七八
		二	右回答ノ件	七八
四二	明治十二年 三月 二十七日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正ニ付蘭國政府ヨリ回答ノ件	七八
		附屬書	航海條約改正ノ儀ニ付テハ調査結末次第通暢ス ヘキ旨回答ノ件	七八
四三	明治十二年 五月 二十九日	青木駐獨公使ヨリ 寺島外務卿宛	蘭國政府ヨリノ答翰他國ノ抗論ニ擬 スル如キ旨ノ情報通達ノ件	七八

第六節 對 境 交 涉

四三	明治十二年 六月 十八日	本間在境公使館二等書記官 ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正交渉開始ノ旨報告ノ件	七八
----	--------------	------------------------------	----------------	----

附屬書

明治十一年五月二十四日	本間在境公使館事務取扱ヨリ 條約改正要求ノ趣旨開陳ノ件	七八
-------------	--------------------------------	----

四四	明治十一年 八月 十四日	本間在境公使館二等書記官 ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正ニ關スル境國外務卿代理來 翰送付ノ件	七八
----	--------------	------------------------------	---------------------------	----

附屬書

明治十一年七月三十日	境國外務卿代理ヨリ本間在境公 使館二等書記官宛書翰寫 條約改正要求ニ對シ回答ノ件	七八
------------	--	----

四五	明治十一年 十一月 六日	本間在境公使館二等書記官 ヨリ 森外務大輔宛	條約改正交渉遷延事情報告ノ件	七八
----	--------------	------------------------------	----------------	----

第七節 對 露 交 涉

四六	明治十一年 二月 二十日	榎本駐露公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正書類委任狀等ニ關スル件	七八
----	--------------	--------------------	-----------------	----

附屬書一

明治十一年二月十二日	榎本駐露公使ヨリ寺島外務卿宛 電信寫 條約改正書類及委任狀等送付ニ關シ問合ノ件	七八
明治十一年二月十三日	寺島外務卿ヨリ榎本駐露公使宛 電信寫 右ニ對シ回答ノ件	七八

三

明治十一年二月十四日榎本駐露公使ヨリ寺島外務卿宛
電信寫
電文ノ意義ニ關シ開合ノ件……………七八九

四二七 明治十一年 四月二十日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

訓狀其他書類接受竝ニ巴里出張中止
ノ旨報告ノ件……………七八九

四二八 明治十一年 五月十七日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正交渉經過報告ノ件……………七九〇

四二九 明治十一年 五月二十八日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正交渉經過報告ノ件……………七九二

四三〇 明治十一年 六月十二日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

明治十一年五月二十日條約重修談判記事第二號……………七九二
條約改正ニ關スル露國政府ノ態度報
告ノ件……………七九九

四三一 明治十一年 六月十八日

寺島外務卿ヨリ
榎本駐露公使宛

榎本公使歸朝ノ件……………八〇一

四三二 明治十一年 七月三日

榎本駐露公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正ニ關スル露國政府ノ回答書
送付ノ件……………八〇二

四三三 明治十二年 二月二十二日

西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

倫敦會議ニ對スル露國政府ノ意向報
告ノ件……………八〇三

附屬書

明治十二年二月七日西駐露臨時代理公使ヨリ寺島外務
卿宛電信寫
倫敦會議ニ對スル廟決伺ノ件……………八〇四

四三四 明治十二年 二月二十六日

寺島外務卿ヨリ
西駐露臨時代理公使宛

英國政府提唱ノ倫敦會議ニ關シ訓令
ノ件……………八〇五

四三五 明治十二年 三月六日

寺島外務卿ト露國臨時代理
公使トノ對話書

倫敦會議開催ニ對スル帝國政府ノ意
嚮開合ノ件……………八〇五

四三六 明治十二年 三月十二日

寺島外務卿ト露國臨時代理
公使トノ對話書

條約改正談判開催地及談判ノ形式等
ニ關スル件……………八〇七

四三七 明治十二年 三月十七日

寺島外務卿 露國臨時代理公
使ト對話書

條約改正談判開始ニ關スル我方方針
ニ關スル件……………八一〇

四三八 明治十二年 三月二十二日

西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

倫敦會議ニ關スル露國政府ノ意嚮報
告ノ件……………八一〇

四三九 明治十二年 三月二十六日

寺島外務卿ヨリ
西駐露臨時代理公使宛

倫敦會議中止トナリタル旨報告ノ件……………八一二

四四〇 明治十二年 四月六日

西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

英國東京ニテ商議開催ヲ承諾シタル
ニ付露國委員東京ヘ派遣方申入ルヘ
キ旨訓令ノ件……………八一二

四四一 明治十二年 五月二日

寺島外務卿ヨリ
西駐露臨時代理公使宛

東京商議ニ對シ露國委員任命アリタ
ル旨報告ノ件……………八一三

四四二 明治十二年 七月十八日

西駐露臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

附屬書
明治十二年七月十五日露國外務次官ヨリ西駐露臨時代
理公使宛書翰和譯文
東京商議ニ對シ露國側委員任命アリタル旨通告
ノ件……………八一三

第八節 對伊交涉

四四三 明治十一年 四月二十一日

櫻田駐伊臨時代理公使ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正交渉開始方ニ關シ回答ノ件……………八一四

四四四	明治十一年五月十一日	櫻田駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正交渉開始時期ニ關スル件……………	八一四
四四五	明治十一年六月八日	櫻田駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約改正交渉開始並ニ交渉經過報告ノ件……………	八一五

附屬書

明治十一年五月三十日櫻田駐伊臨時代公使ヨリ伊國 外務卿宛書翰寫 條約改正要求ノ趣旨開陳ノ件……………	八一八
--	-----

四四六	明治十一年六月二十九日	櫻田駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	伊國首相及領事事務局長ト會談ノ要 領報告ノ件……………	八二〇
-----	-------------	-----------------------	--------------------------------	-----

四四七	明治十一年七月十四日	櫻田駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	條約取調係ヘ我國ノ事情説明ノ件……………	八二三
-----	------------	-----------------------	----------------------	-----

四四八	明治十一年八月十七日	中村駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	伊國外務卿ト面會ノ件……………	八二三
-----	------------	-----------------------	-----------------	-----

四四九	明治十一年十月二十日	中村駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	伊國外務卿ヨリ改正要項明示方要請 ノ件……………	八二四
-----	------------	-----------------------	-----------------------------	-----

四五〇	明治十一年十月二十日	中村駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	伊國新聞記事抄譯送付ノ件……………	八二四
-----	------------	-----------------------	-------------------	-----

附屬書

明治十一年十月七日「ガゼット、デル、カピターレ」紙抜 抄和譯文……………	八二五
---	-----

四五一	明治十一年十二月六日	中村駐伊臨時代公使ヨリ 寺島外務卿宛	伊國政府回答送付ノ件……………	八二五
-----	------------	-----------------------	-----------------	-----

附屬書

明治十一年十一月十四日伊國外務卿代理ヨリ中村駐伊 臨時代公使宛書翰寫 條約改正要求ニ對シ回答ノ件……………	八二五
---	-----

四五二	明治十二年一月十三日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	條約改正談判ノ場所及時期ニ關スル 件……………	八二八
-----	------------	--------------------------	----------------------------	-----

四五三	明治十二年一月二十八日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	改正條約施行時期等ニ關スル件……………	八二九
-----	-------------	--------------------------	---------------------	-----

四五四	明治十二年二月九日	中村駐伊臨時代理公使ヨリ 寺島外務卿宛	英國政府ヨリ倫敦會議開催方伊國政 府ヘ照會ノ件……………	八三一
-----	-----------	------------------------	---------------------------------	-----

四五五	明治十二年二月十四日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	伊國公使ヨリ日伊條約草案提示ノ件……………	八三二
-----	------------	--------------------------	-----------------------	-----

附記

右草案……………	八三二
----------	-----

四五六	明治十二年二月二十四日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	倫敦會議ニ關スル件……………	八三六
-----	-------------	--------------------------	----------------	-----

四五七	明治十二年三月五日	寺島外務卿ヨリ 三條太政大臣岩倉右大臣宛	日伊條約草案ニ關シ上申ノ件……………	八三七
-----	-----------	-------------------------	--------------------	-----

附屬書一

日伊條約伊國側草案……………	八三七
----------------	-----

二 日伊條約我方對案……………	八四〇
-----------------	-----

四五八	明治十二年三月二十五日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	日伊條約草案取調方ノ件……………	八四四
-----	-------------	--------------------------	------------------	-----

四五九	明治十二年四月九日	寺島外務卿ヨリ 中村駐伊臨時代理公使宛	東京ニテ談判開催方英國政府承諾ノ 件……………	八四四
-----	-----------	------------------------	----------------------------	-----

四六〇	明治十二年五月八日	寺島外務卿ヨリ 三條太政大臣宛	伊國トノ改正條約草案評議方上申ノ 件並ニ之ニ對スル太政大臣指令……………	八四五
-----	-----------	--------------------	---	-----

附屬書

日伊條約案……………	八四五
------------	-----

四六一	明治十二年六月三日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	日伊通商條約案ニ關シ交渉ノ件……………	八四七
-----	-----------	--------------------------	---------------------	-----

附記

伊國公使ヘ提出セラレタル日伊通商條約案佛譯 文……………	八五〇
---------------------------------	-----

四六二	明治十二年六月十八日	寺島外務卿ト伊國公使トノ 對話書……………	日伊通商條約案ニ關シ交渉ノ件……………	八五四
-----	------------	--------------------------	---------------------	-----

四六三	明治十二年六月十九日	寺島外務卿ヨリ 三條太政大臣宛	伊國トノ改正條約案追加條款評議方 上申ノ件……………	八五七
-----	------------	--------------------	-------------------------------	-----

附屬書

右追加條款

八五七

四六四

明治十二年 六月 二十日

寺島外務卿ヨリ
三條太政大臣宛

伊國公使提出ノ覺書和譯文送付ノ件

八五九

附屬書

右覺書和譯文

八五九

四六五

明治十二年 七月 二十五日

寺島外務卿ヨリ
中村駐伊臨時代理公使宛

伊國公使トノ談判ノ經過ニ關スル件

八六〇

附錄

舊條約集

一	日本國米利堅合衆國和親條約	安政元年 三月 三日調印	一
二	日本國米利堅合衆國和親條約附錄	安政元年 五月 二十二日調印	七
三	日本國米利堅合衆國修好通商條約	安政五年 六月 十九日調印	九
四	日本開きたる港々に於て亞米利加商民貿易の章程	安政五年 六月 十九日調印	二六
五	日米通商約定	文久三年十二月 二十日調印	三〇
六	改稅約書	慶應二年 五月 十三日調印	三一
	運上目録輸入品		四四
	運上目録輸出品		五〇
	規則		五二
七	日本國魯西亞國通好條約	安政元年十二月 二十一日調印	五三
八	日本國魯西亞國條約附錄	安政元年十二月 二十一日調印	五四
九	日本國魯西亞國追加條約	安政四年 九月 七日調印	五五
一〇	日本國大不列顛國修好通商條約	安政五年 七月 十八日調印	六〇

一一	日本國佛蘭西國修好通商條約	安政五年 九月 三日調印	七六
一二	日本國佛蘭西國條約第七條第十九條說明書	安政六年 九月 二十二日調印	九四
一三	日本國普魯士國修好通商條約	萬延元年十二月 十四日調印	九五
一四	日本國獨逸北部聯邦修好通商航海條約	明治二年 一月 十日調印	一〇
一五	日本國伊太利國修好通商條約	慶應二年 七月 十六日調印	一一七
一六	日本國埃地利洪噶利國修好通商航海條約	明治二年 九月 十四日調印	一二二
一七	日本に於て埃地利及洪噶利人交易を爲す定則	明治二年 九月 十四日調印	一五七

序	一頁一行目及二行目	立法史料。	史料。
凡例	二頁十一行目	明治十三年迄	十二年迄

正條改
關係
大日本外交文書 第一卷

第一章 明治政府ノ條約改正提議

一 明治元年三月二十日 東久世外國官副知事ヨリ
西曆一八六九年二月四日 各國公使宛

幕府締結ノ條約改正ノ爲商議開始申出ノ件

以手紙致啓上候然是我國中古より幕府をひらき大將軍を置全國の政權を掌握に歸し政體も亦隨て其制度を用來候處今般悉皆是を廢し制度一新未曾有の改革を興し候に付ては貴國と取結置候條約書の義も現今に至候ては前文の變遷より名實不當の廉有之竄定いたし度條件不少候間未た右改定の年期に不及候得共今より數月を出す其御相談に取懸り申度存候此段閣下御異存無之候はゞ表たち御懸合可申積先我政

府の存意を拙者より申述度如此御座候就ては御存慮次第於改定期月等は改て可申進と存候右可得御意如此御座候以上

辰十二月廿三日

東久世中將

佛米蘭字公使姓名閣下

前同文言

十二月二十四日

此時二國公使東府ニアリ

英伊公使姓名閣下